

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H Journal

- to communicate and convey the message of Shiga's traditional principles of M・O・H -

44号
2014
Summer

特集:暮らしの中から未来を変える
「more moh」



てんびょうふで
「天平筆」㊦

奈良県の正倉院に残る天平筆と同じ代表的な写経用の紙巻筆。別名「雀頭筆」とも呼ばれ、原料はコリススキー（ロシア産イタチ）、紫毫を芯に上毛は羊毛。穂先が効き、腰もしっかりしています。

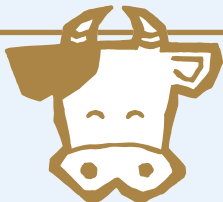
●攀桂堂（はんけいどう）雲平筆

1615年創業。当初より代々伝統製法である「巻筆」の製法を守り続けている。「巻筆」は芯に和紙を巻く製法で腰が強く、穂先にまとまりが出るのが特徴。屋号の攀桂堂は5代雲平の時に近衛予楽院家熙公（このえよろくいんいへいごろう）より賜り明治期まで禁裏御用達（きんりごようたつ）として、特に有栖川宮家（ありすがわみやけ）のご用命を賜りました。また14代雲平の時には宮内庁の依頼で奈良の正倉院に残る最古の巻筆「天平筆」を復元した功績があります。

●ひつりゅうけんごうとうまきふで
●「筆龍兼毫藤巻筆」㊦
●代表的な紙巻筆。毛を着せて和紙を巻くのを繰り返して、最後に籐を巻いて仕上げる製法。原料は中国産羊毛と日本産赤天尾の兼毫。墨含みを良くした揮毫用の筆。行書・草書用に最適です。



【問合せ】
攀桂堂 雲平筆
藤野 純一
滋賀県高島市安曇川町上小川190-6
Tel:0740-32-0236
<http://umpei-fude.jp>



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためM・O・H通信は情報を発信し交流を続けます

M	→	もったいない	循環	他の生命を奪って得たものを使わせて頂く
O	→	おかげさま	共生	人は一人では生きられない、環境によって生かされている
H	→	ほどほどに	抑制	欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

contents

目次

特集:暮らしの中から未来を変える『more moh』

M・O・H巻頭言

経済至上主義では決して持続可能社会にならない 森 建司 …… 4

M・O・Hな店 瀬田編 (GREEN Kitchen)

地域をデザインするカフェ 河合 資 …… 5

① M・O・H対談 (油藤商事株式会社)

持続可能なエネルギーの未来 青山 裕史 & 森 建司 …… 9

② M・O・H座談会 (ファブリカ村、滋賀グリーン購入ネットワーク、kikito)

元気印のパワフル座談会

北川 陽子 & 辻 博子 & 大林 恵子 & 森 建司 …… 17

③ M・O・Hレポート (コクヨ工業滋賀)

ヨシの紙で琵琶湖を守ろう!

前田 賢一 & 太田 俊浩 & 岡田 佳美 …… 25

④ M・O・Hレポート (丸三八シモト)

守り続けて次代を創る 橋本 英宗 …… 31

⑤ 寄稿 (スローデザイン研究会)

菓の家で忘れた豊かさを取り戻す 大岩 剛一 …… 37

⑥ 寄稿 (リパティ桜の花・ひなた)

新しい介護のカ・タ・チ 小金澤 一美 …… 41

⑦ 寄稿 (琵琶湖環境科学研究センター)

おうち節電アクションプロジェクトの紹介 内藤 正明 …… 45

⑧ 寄稿 (環人ネット・住みよいまち&絆研究所)

古写真活用プロジェクトとひまわりプロジェクト 奥野 修 …… 49

M・O・Hレポート

M・O・H通信10周年記念パーティ『M・O・H cafe』開催!! …… 52

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 57

心温まる物語

まばゆく輝く指輪 今関 信子 …… 59

里のお話

玄番尾城 三山 元暎 …… 61

本の紹介 …… 62

M・O・Hせんりゅう♪& なぞかけ …… 63

追悼——畑裕子先生

亡き妻への最後のラブレター 畑 明郎 …… 65

講演日記 …… 66

M・O・Hニュース ……67

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真

辻 耕司

大津市仰木の畑田。
近年獣害柵の設置が多
くなっている

暮らしの中から 未来を変える

『more moh』



千日まいり千燈祭。この日お参りすると
1000日参ったと同じ功德があるという



現在は経済至上主義から、次の時代であるべき持続可能社会への改革期に入っている。

第二次世界大戦敗戦の数え切れない人々の死と、徹底的に破壊された村や都市。その中において生活の場を立て直す足元の生活資材から、未来の希望につながる高度な生活環境の構築まで、

それらを素早く実現し国民の期待に応えたのは、正に理数系のものづくりを中心にした、経済至上主義の大きな成果であった。

私たち開戦の直前

に生まれた世代は、社会の激動的な変遷を体験しその渦中に加わってきた。

国を挙げての徹底した国家主義、愛国心、それによって大きな自己犠牲が強いられる戦争、敗戦の時代。そしてゼロからスタートした経済成長、特に科学技術による経済の成果は世界から評価を得て、わが国に豊かさや幸福を

経済至上主義では決して 持続可能社会にならない

もたらした。その背景には経済成長に対する国民の絶対的な信仰とも言うべき新たな価値観、倫理観の意識改革があった。恐らく明治維新でも市民の激しい意識改革があったことだろう。

さて今こそ、偉大なる成果を上げてきた経済至上主義が、永続的な存在でなくその主体が、内部に抱えていた自己

矛盾によって倒されようとしている、というよりも人類の未来を護るためにも倒れなければならぬ時代に入りつつある。正に革命的变化が起きようとしていることに気付かざるを得ない時が来ているのだ。

広く市民の合意を得て民主主義の社会体制が構築され、その市民の消費活

動によって産業も生まれ経済も成長する。そしてその社会は、権力者や指導者たちが創り上げた社会倫理や体制によって修正され発展する。たとえそれが未来の可能性を否定する誤った方向へ向かうものであっても、改革に対しては強力な抵抗勢力になるのは必ずである。彼らにとつて「自らの経済至上

主義」こそがこの世における唯一の居場所であり存在感を示せるところであるのだから。

森 建司

持続可能社会は、経済至上主義社会からすれば改革後の新時代であろう。この世の中には決して絶対的な倫理に支えられた、永劫に不滅の社会体制などはあり得ない。主体の成長と共に、その主体を否定する自己矛盾も成長し続けているのだ。

時にはルネサンス的思考法が求められるのではなからうか。

地域をデザインするカフェ

安心な素材の料理と野菜の無人販売

河合 資

GREEN Kitchen

JR瀬田駅前の店で、地元産オーガニックフードを提供するGREEN Kitchenの河合資さんは、野菜の無人販売ボックス・MUJIN Storeを駅周辺に設置して、地元産の野菜市場を作ろうとしている。河合さんに話を聞いた。

■GREEN Kitchen(大津市)

■2013年12月5日



M・O・H
な店

瀬田編

はじまり

2012年10月、JR瀬田駅裏すべのところに地元産の野菜を提供するカフェ GREEN Kitchen がオープンした。オーナーの河合資さんは、官公庁団体のホームページなどを手がけていたディレクター兼デザイナー。充実した会社員生活を送っていたが、会社の近所には、自分の食べたい昼食を提供する店がなかった。

「おいしい野菜が食べたいな」と思ったところから、思考は展開し、そういえば、地元滋賀県では野菜を作っている。野菜作っている人って面白いな。その人の野菜でお店やりたいいな…。と発想を膨らませ、構想を練ること約2週間、「地元産の野菜を提供するカフェ」というコンセプトができ、会社を辞めた。

約1年半カフェを運営してきた河合さんが今、取り組んでいるのが野菜の無人販売ボックス・MUJIN Store。店の前に設置された第1号のボックスには野菜が並ぶ。JRのプラットホームから目立つ。

流通への挑戦

「デザインとは、物事をより良くすること。今回の試みは、流通をデザインすること」と河合さん。

MUJIN Storeを町にたくさん設置し、それを自分たちの市場にしようと考えている。

カフェ運営を通して生産者とのつながりができると、生産者にもっと利益が出る仕組みが必要だと感じた。小規模な農業では、生計を立てようと思っても成立しにくい現状が見えたからだ。

「おいしくて安全な野菜を栽培する小規模農家さんにも豊かになってほしい」。そんな思いが募った。

大規模な組織運営では利益を出さなければならぬから、仕入れ値を低く抑えるという一般的な流通の仕組みは分かる。

ならば、いつその事、店舗も人もなくしたらどうだろうか。考えを重ね、「コストを削ぎ落としていくと、たどり着いたのは無人販売・MUJIN Storeという発想だった。

「いまのMUJIN Storeとは、おい

しい野菜を作れば誰でも利益を出せる仕組みのこと。「このペースを作ることで農業が就労の選択肢の一つになれば」と河合さんは語る。

無人販売は昔からある野菜販売の仕組みだ。河合さんは、旅先などで無人販売を見つけたとテンションが上がり、つい野菜を買ってしまうという。無人販売の良さを知っている河合さんだからこそ GREEN Kitchenブランドの信用を確立し、安全性・おいしさなどさまざまな面で一定の品質を提供できると考えている。

二極化する食へ物への関心

食への関心は人それぞれだ。化学肥料や合成農薬などを控えた農法・有機栽培を優先的に選ぶ人や、食の安全に無関心な人も。「どちらの人も集まれる店に育てていきたいので」とカフェを「有機栽培」専門店にはしなかった。

「これ、おいしいですね」という声があつた時に「そうですよね。実は、無農薬の長浜の全粒粉を使っています」という会話が、





②

① 草津産「かりの野菜」の小葉。とにかく甘い! ② 無人販売という昔ながらの仕組みを若者の生活に染み込ませたい。チラシはキャッチーなアイコン、ファッションブルな要素は必須条件



1

食物の農法への興味を広げるきっかけになればと考えている。

無人ボックスもまさにその試みの一つ。「多くの人が安全な農法で栽培された地元産の野菜を使うようになるスイッチを日常に仕掛けたら」という思いが込められている。「二極化している軸を少しだけ近づけたい。その仕組みは自分たちで考える。そんな試行錯誤がGREEN Kitchenでは行われている。」

広がれMUJIN Store

地元(瀬田)の方々がとても暖かいら。「うちのところに置いてほしいよ」とか、「息子の保育園にも置いておくれ」と声をかけてくれる。保育園や幼稚園のお迎えの時間帯に野菜の無人販売ボックスがあれば、確かに夕食の買い物に便利だ。

実は、瀬田にはすでに6基の無人販売所がある。もともと無人販売の文化が根付いている地域だけに、MUJIN Storeの広がりが期待できる。

MUJIN Storeの規模としては、管理する人が自転車で行ける範囲に何カ所

か設置するのが理想的」とか。

そこで、MUJIN Storeは小回り有利き、しかも見た目にもこだわりキャッチーな形状にした。

「このボックスを置いたお店が、地元産の野菜に興味があることを示す目印になるようなものにした」と意欲的だ。

地域をデザインする

今、河合さんは世の中の仕組みを勉強中だ。

「僕はは今、お金を作った人の仕組みの中にいる。その中で、自分たちでマーケットを作れることは、経済の仕組みを作ること。それはすなわち地域をデザインすること。各地で同種の取り組みがたくさんある。もう少しうまく伝えて、いろんな人が参加できる仕組みを作りたい。MUJIN Storeは各地でできるので、最終的には滋賀県をぐるりと一周できたらいいな。夢は、滋賀県をデザインすること」と河合さんは締めくくった。



5



3



4



7



6

③ 店内は若い女性のおしゃべりタイムでいつも賑やか。お友達になりやすい ④ 長浜産の無農薬大豆を使用したお豆腐。ふわふわのお揚げは病みつきになりそう ⑤ こだわりの野菜を選ぶ河合さん。いつも前向きで食に対する思いは強い ⑥ 若手のネットワークがおいしく健康な素材を集められるヒケツ ⑦ 長浜産無農薬全粒粉を使用したヴィーガン仕様のビスコッティ。テイクアウトの一番人気

スイートオン。 河合 資

● GREEN Kitchen

滋賀県大津市大萱1丁目18-7

グロワール赤羽2F

営業時間：11時30分～21時(頃)

定休日：不定休(基本月曜日)

TEL：050-36666-65226

E-Mail：info@gyb.jp

http://www.gyb.jp

● かわいたすく!!
1985年大津生まれ。
2012年まで官公庁団
体のホームページなどを
手がけていた、デザイン
ナー兼ディレクター。現
在、ローカルフードネッ
トワーク構築中。夢は地
元オーガニックフアー
マーから届く新鮮な野菜
を、みんな(特に若い世
代)の生活の中で当たり
前に取り入れたい。



ローカルオーガニック野菜たっ
ぶりの「お野菜ランチ」



〈暮らしの中から未来を変える『more moh』〉

持続可能なエネルギーの未来 — 天ぷら油から作るバイオディーゼル燃料



青山 裕史

油藤商事株式会社
専務取締役



森 建司

循環型社会システム研究所
代表

日常生活で捨てられるものから燃料を作り出す「エネルギーの地産地消」を実践するガソリンスタンドが豊郷町にあります。

使用済みの天ぷら油を使った軽油代替燃料「バイオディーゼル燃料」の販売に取り組んでいる油藤商事株式会社の青山専務取締役にお話をうかがいました。

■油藤商事株式会社（豊郷町）

■2014年4月9日





あらゆるエネルギーを提供するガソリンスタンドの未来のカタチ
実際から回収した廃食油を利用してこの燃

バイオディーゼル燃料とは

森 油藤商事さんは、天ぷら油などの廃食油で作られる「バイオディーゼル燃料」が供給できるガソリンスタンドを運営されています。バイオディーゼル燃料とはどういうものですか？

青山 家庭や食堂などで捨てられる天ぷら油など植物性の廃食油から作る次世代のバイオマスマスエネルギーのことで、弊社では、2002年頃から各家庭から回収した廃食油を利用してこの燃料の精製・販売を行ってきました。実際

に、滋賀県内にある弊社のガソリンスタンド三カ所で給油していただけます。

森 普通のガソリンと混合することは可能ですか？

青山 軽油と混合することが可能で、ガソリンスタンドで軽油を給油して頂いても大丈夫です。売り上げはガソリンスタンドだけを見ると2割を超え、現在も増えており、生産が追いつかないくらいです。

ソーシャルビジネス

森 廃食油の活用とえば、藤井絢子さんが廃食油のせつけんりサイクルからナタネ栽培まで着手された「菜の花プロジェクト」がありますね。

青山 実は、この事業を始める前に藤井さんにお会いしています。

僕は、当初、ガソリン販売が嫌いでした。油屋に生まれ、跡継ぎとして事業を継承する立場でジレンマを抱えていたところ、あるライターさんに「天ぷら油で車が走るとい話を聞いたけど、ほんまですか？」と質問を

受けました。

調べると、東京で取り組まれている方がおられました。数日後に東京で話を聞いたなら、滋賀県に藤井絢子さんという人が居ると分かり藤井さんを訪ね「菜の花プロジェクト」の話をうかがいました。「これならガソリンスタンドでもできるかな」と思ったのが事業のきっかけです。

森 天ぷら油はどのような方法で集めておられるのですか？

青山 公民館、スーパー、学校給食、社員食堂、企業の従業員さんの家庭の油を集めるなど様々なルートを使います。時には牛乳配達を利用して回収を行うこともあります。

バイオディーゼルというのはエネルギーの地産地消です。地域の天ぷら油を集めてくることから燃料を作りま

すから手間暇が掛かります。森 家庭にしたら廃棄するものですか

青山 使い終わった天ぷら油を琵琶湖に流したくないので、回収してほしいという方はたくさんおられます。



循環する仕組み作り

青山 将来的にはガソリンも、ガソリンを使う車も無くなるでしょう。すなわちガソリンスタンドもいずれ消滅する運命です。しかし、「ガソリンも」売っているガソリンスタンドは残っていくはずです。ガソリンは単なる選択肢の一つ

になり、あらゆるエネルギーを提供できるステーションが、ガソリンスタンドの未来形です。

それを想定して取り組んだのがバイオディーゼルです。バイオディーゼルは手間もお金もかかりますが、地域の天ぷら油を集めて地域で作るといふ、地域の人々を巻き込んでやるところに面白さや、

やりがいがあります。

森 この活動は12年目、持続されていますね。

青山 まだまだ伸びます。天ぷら油の出る量は限度がありますが、我々のような小さなガソリンスタンドが運営できるだけの分量は確保できるでしょう。

まずは、地域で回収する仕組みを作り、地域の車に使っていただけというモデルをたくさん作ること。

現在、回収実施地域は滋賀県内です。新し

い事業をしようと思っても、廃食用油がないと展開できません。

森 供給を増やすわけにはいかないから。それが地産地消の良い点でもあるでしょう。大量生産されたものを大量消費するのではなく、循環する仕組みの中で適量を生産し消費する。

青山 企業さんから「バイオディーゼルを使いたい」と打診があれば、「まずは、天ぷら油を集める仕組みを作ってください」とお願いします。

森 企業で集めると、社員のご家庭の廃食用油を集めることができますね。

青山 一家庭で、使用済みの天ぷら油が一缶溜まるには何年かかかります。しかし、企業毎に回収すると、毎回誰かが持つて来られますのでそれなりの量が集まります。

自分たちの使う燃料を自分たちで集めるといふのが、この仕組みの肝です。ですから持続可能なのです。集めている間は使ってもらえるし、使ってもらえる間は集めます。

森 エネルギーの供給はスイッチを入れることで無限に消費できるという発想

「中小企業は口コミで広がる」 森代表





ではなく、自給自足を実践する仕組みですね。

● 中小企業の生きる道

青山 新江州さんは、包装資材の会社なのに、包装材を減らす活動をされていると聞いてすごいなと思いました。

「自分たちが使う燃料を自分たちで集める仕組みづくりを」 青山氏

森 中小企業経営学で博士号を取られた先生のご研究の中でさまざまな事例を紹介されていますが、電気製品の小売店で大きく伸びている会社の例があります。そこは、営業で電気製品を売りに行くにあたって、「極力売らないつもりで行くように」と徹底されました。お客さんのところへ行つて、「電気でご不自由なさっていることがあればお手伝いします」と営業は

聞いて回り、売り上げがぐんぐん伸びました。
青山 物を売らなくなったら売れたという話ですね。

森 中小企業は口コミで広がります。「あそこはいいよ。本当に面倒を見てくれるよ」と噂を聞いた人から電話がかかります。

青山 弊社ではタイヤの販売も行います。タイヤを買いたい場合は、量販店やネットも含め、どこでも買えますが、処分したい時に回収してくれるところはありません。

そこで、古タイヤの処分に目を付けました。お客さんに頼まれたら軽トラックで取りに行き、回収した古タイヤは、細かいチップにしてボイラーの燃料としてリサイクルしています。古いタイヤを処分すると新しいタイヤが売れていきます。当社には軽トラックを常備していますので、社員がお問い合わせの電話があればすぐに動きます。

森 大量販売の店では、できない方法ですね。

● リサイクルする場所としてのガソリンスタンド

青山 弊社で15年来取り組んでいるのがペットボトルの回収です。

ペットボトルはリサイクル可能と誰もが知っていますが、リサイクルに出せる場所がありません。



そこで、ガソリンスタンドを資源ゴミの回収場所と位置づけました。車のガソリンを給油して、ついでにペットボトルを置いていけるので便利です。

森 家庭ゴミの回収の一つですか？

青山 そうです。ペットボトル、乾電池、古紙、段ボール。車のある家庭では、ガソリンスタンドは月に一、二回行きますから、その際、パツと捨てられたいら築ですね。

弊社のみならず、全国に約4万カ所あるガソリンスタンドで資源ゴミの回収をすれば、世の中は大きく変わります。ガソリンスタンドは環境に悪いものをまき散らす拠点だからこそ、そういうことをするべきです。

森 生活の実面で役に立っていることは素晴らしいことです。ガソリンが供給されない、流通が止まってしまいますから、非常に重要な仕事です。反面、良く効く薬と同じで、副作用があることもある。それが供給された後、不要物を回収することで、その副作用の部分に真っ向から対峙しておられる。

社会復帰の訓練場所としてのガソリンスタンド

青山 弊社で、もう一つ取り組んでいるのは、人づくりです。世の中には、社会適応が困難などの課題を抱えた引きこもりやニートの子どもがたくさんおられます。そこで、彼らにガソリンスタンドで働いてもらい社会復帰を目指す取り組みをしています。

ガソリンスタンドの仕事はそれほど難しくありませんし、お客さんとの適度なコミュニケーションもある。また、夏は暑く冬は寒い中、立ちっ放しで忍耐力が必要ですが、ニートや引きこもりの子は忍耐力がある方が多いので合うのです。

弊社では訓練生として4人目の子が3月まで働いていました。彼は中学2年生の時、学校でもめて、中学3年生は一度も学校に行かず通信制の高校に進学し、縁があって弊社で一年半、働きました。いろいろなことを学び、次のアルバイトに移っていききました。

彼らを一人前の戦力になるように育成したい。全国に約4万カ所あるガソ

リンスタンドが彼らを雇えば、約4万人の雇用が生まれます。森 まさに、持続可能な社会のあり方です。

エネルギーの地産地消を一緒に

青山 会社名の由来は、弊社の創業者・初代青山藤八が油を売っていたので、「油藤」です。創業100年を超えていますから、僕の代で終わらせる訳にはいきません。次代の子どもに引き継ぐために何かしなければ。

そのためには「今が良ければ」という考えでは駄目。本を読み、さまざまなお話を聞き、勉強しています。

森 豊郷町で運営されていますが、他の地域に飛び火はしていますか？

青山 この活動を広げることは僕のミッションではありません。呼ばれたら出掛けて話し、問い合わせがあれば全ての情報を渡します。しかし、各地域でどのように実践されるかは、それぞれの地域に合った方法があると思います。



①



⑤



③



②



④

① バイオディーゼル混合軽油の計量機 ② グリーン購入ネットワーク グリーン購入大賞、滋賀CSR経営準大賞などを受賞 ③ 満州事変忠誠録の書籍に「村で評判の藤八油」と紹介されている ④ バイオディーゼル燃料を精製する装置、油蔭商事株式会社オリジナル仕様 ⑤ 各ご家庭より回収した廃てんぷら油と鹿児島から購入した精製装置



森 H Pを拝見すると、バイオディーゼルの燃料（以下、B D F）の使用を、車体に明記する事業所さんが増えていますね。10年前と比べると、環境のことを考えたB D Fでトラックを走らせるのは当たり前になりましたね。私たちの価値感覚が変化したというのは、御社の功績ですね。

青山 「バイオ燃料を買ってください。いくらにします」ではなく、「エネルギーの地産地消を一緒にしよう」と呼びかけています。自分たちの使う油を集めていただいで、使用していただいた瞬間に循環になるのです。グルグル回す基点を作ることに集中しています。

捨てるものからエネルギーを

青山 突然ですが、理髪店や美容院で頭髮がどれくらい廃棄されるかご存知ですか？ 全国民1億2千万人が廃棄する頭髮は大量です。この頭髮をリサイクルできないだろうかと考えています。

頭髮は繊維です。原材料はアミノ酸なので、リサイクルが可能です。加えて

微量の金銀銅、レアメタル、プラチナなどが含まれているそうです。それを集めて化学変化を促すと、レアメタルも収集できます。

森 頭髮の繊維からエタノールも抽出できるのでですね。長浜バイオ大学に相談してみましよう。御社で実用できれば長浜でやってほしい。

青山 ぜひ一緒にさせていただきます。

森会長、もう一つあります。お酒です。ビールならアルコール5%、焼酎なら40%、日本酒なら30%。料飲店では飲み残されたお酒は廃棄します。アルコールにはエタノールが含まれます。エタノールとは、まさしくエネルギーです。

つまり飲み残しのエタノールは持続可能に毎日出ているのです。このエタノールを抽出しエネルギー化し、蛍光灯を灯せないでしょうか。

日本酒を温めると54度でアルコールが蒸発します。これを急激に冷やし精製するとエタノールができます。それで発電機を回し、電気を作る…これこそ、夜の町（料飲店）ができるリサイクルです。

このように、それぞれの業種で、今

まで捨てていたものに視点を合わせてみると、新エネルギーはごく近くにあるかもしれません。

森 実は、製紙業界でも、環境省からの依頼で古紙からエタノールを抽出し利活用する事業を検討した事があります。古紙の繊維からエタノールを抽出するということで、大学に依頼したところ、「モノはできます」と言われました。ところが古紙業界と協働体制が整わず実現しませんでした。

燃料のハイブリッド化を 目指して

青山 弊社は灯油を販売していますが、お客さんは寒い時に暖を取るために灯油を購入されます。ということは、僕らは灯油だけではなく、「寒い時に暖かくなるためのもの」を売っているという事です。

暖をとることが目的だったら、灯油でなくても薪やペレットでもいい。僕らは、配達をすることが仕事です。これからは、「灯油も」配達するガソリンス

タンンド、つまり暖を取るための様々な燃料をお届けできる会社になりたい。

お客様から、「今日は忙しいから灯油でいいわ」「今日は時間があるからペレット持って来て」と選択していただけると、燃料のハイブリッド化が実現します。

森 滋賀県立大学の鵜飼修先生たちが薪ストーブ用の薪ボックスを開発され、その段ボールを弊社が提供しています。

段ボールに薪が入っており、朝、ストーブに箱を放り込んだら6時間燃えてくれる。途中で薪を足す必要がありません。

青山 それを配達するのは弊社の役割です。タンクローリーの横に乗せてね(笑)。

● エネルギーの未来

青山 捨てられるものを活用するには、多くの人を巻き込むことが大切です。原料になるものを集めて、エネルギー化する。それが循環するエネルギーの姿です。そこに僕らのエネルギーの未来があります。

滋賀県には環境への関心が高く、社員数が多い事業所があります。廃食油を回収する仕組みを作って頂けたらご協力いたします。輸送部門を担う運送会社などの車輛は、彦根にある弊社のBDFスタンドでバイオ燃料も給油していただけますよ(笑)。

森 そうですか。大変勉強になりました。本日はありがとうございます。



「エネルギーの地産地消」青山氏(左) 森代表(右)

一期一会

青山裕史

●あおやまひろし1971年生まれ。「三方よし」の発想で、ガソリンスタンドをまちのエコジョイステーションと位置づける。廃食油を回収し、再資源化したバイオディーゼルを自社で燃料化し一般販売を開始。グリーン購入大賞、日本環境経営大賞、日本J/C人間力大賞等を受賞。

●油藤商事株式会社

滋賀県大上郡豊郷町高野瀬6445
TEL:0749-35-20081
http://www.aburatou.co.jp

勇を気凛に
いの壁を打ち破れ

森 建司

●もりのけんじ1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。

著書／『吃音はなのお』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版、『中小企業相談センター事件簿』サンライズ出版。



〈暮らしの中から未来を変える『more moh』〉

元気印の パワフル座談会



北川 陽子

ファブリカ村（北川織物工場）



辻 博子

一般社団法人
滋賀グリーン購入ネットワーク
事務局長



大林 恵子

一般社団法人kikito 代表理事



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

JR能登川駅より徒歩15分、のこぎり屋根の織物工場を改装したファブリカ村で、滋賀で活躍する元気いっぱいの女性3名と座談会を開催！皆様の活動をご紹介しますとともに、滋賀が持つ生活習慣と生活文化を現在のライフスタイルにアレンジさせて、新たな市場を生み出そうとする“生の声”をお聞きました。

- ファブリカ村（東近江市能登川）
- 2014年4月4日



ファブリカ村外観

パワフルな3者の顔

森 今号は生活に焦点を当て、女性の感性をマーケットに落とし込んで活躍されている皆さんから、苦勞とやりがいと心意気、そして生活の中に生み出される意義と意味をお聞きしたいと思います。

まずは皆さんの活動をご紹介ください。

北川 ここファブリカ村は、かつて繊維工場として使っていたスペースなのですが、2009年にカフェとショップを併設したもののづくり体験の場としてオープンしました。

父が創業して間もない1964年当時は、作ったら売れる時代でした。麻織物を用いた婚礼布団や婚礼座布団のニーズが高かったです。でも、時代とともに安い外国の製品が注目を浴び、地場産品は選ばれにくくなりました。

地域の素材を残していきたいと思いましたが、もっと地域の人に知ってもらいたいと思ったんです。本業のものづくりも続けつつ、滋賀県のモノ、コト、ヒトが集まる学びの場としてカフェやギャラリーを展開し、暮らしを彩る空

間を作っています。

大林 kikittoはメンバーそれぞれが本業を持ちながら活動しています。地域の高齢化が進むにつれ、継承されない森林が増えていく中、琵琶湖の水源でもある森林をなんとか元気にできないかと考えていました。同じ思いを持った、行政・山主・森林組合・木材加工業者・工務店などの様々な職種の人たちが集まり、地域の材を循環させるシステムを構築したいと活動しています。

材の有効活用や付加価値を付けるという目的で、間伐材を利用した木工品商品の開発・CO₂吸収認証・固定認証・地域材供給体制づくり・間伐材を有効活用した紙製品の開発などを行っています。

県産材を原料とした紙を、kikittoペーパーといいますが、滋賀グリーン購入ネットワーク（以下、滋賀GPN）さんによれば、グリーン購入法にも適合した商品だそうです。

辻 kikittoさんは当法人の会員に入ってもらっていますね。滋賀GPNは頑張っている事業者を応援するため

に、企業も行政も市民も一消費者の立場で、グリーン購入を広げる活動をしています。グリーン購入とは、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。会員事業者にグリーン購入の実践方法をお伝えするセミナーを開いたり、一般消費者の皆さんに向けたエコイベントを開催したりしています。

活動のはじまりは、1994年から滋賀県庁が全国に先駆けてグリーン購入に取り組み、行政が大口消費者として買うことで世の中を変えていこうとしたことです。この活動は全国に広がり、グリーン購入法も制定されました。滋賀GPNの発起団体には新江州さんにも入っていたっていましたね。

森 はい、購入する側の立場でこの会ができたこと記憶しています。企業、行政、消費者団体が力を合わせて市場を変えようとなりました。

辻 そう、皆が消費者の立場で環境を考える事業者や商品を応援する、すなわち「買う」時に少し考えることで持続可能な社会をともにつくろうと呼びかけています。



地産地消が大事なワケ

森 地元産のものには安らぎを感じますね。以前、欄間の彫物を業者に頼んだことがありましたが、「ちよつと中国の事情で入荷が遅れます」と言われたことがあって驚きました。地元の職人さんが作ってくれると思ったのに、中国産だったんです。

北川 注文した方はそんなつもりじゃなくても、多くの買い手が安く手に入れ

ることを喜びと感じてしまっていることが残念です。

辻 我が家は昨年リフォームした時に、床の木材をどうしても滋賀県産材にしたいとこだわりました。若干値段は高くなつたけど、やっぱり地元の木材は輸入材とは風合いが違ふと思います。そしてそういう思いの中で暮らすと、心が豊かになる気がします。

大林 地元産って大事ですよ。やっぱり地域ごとに環境が違います。地元のもの

を使うことが、木にとつても建物にとつても人にとつても優しいものになります。

北川 以前は間屋という仕組みがあり、物のリスクを計算して適正な価格で商品が届けられました。今はこの役目が薄れ、直接のやり取りになつたことも問題です。

私は生産者のことを「作り手」、消費者のことを「使い手」と呼ぶのですが、この作り手と使い手をつなぐ「伝え手」を担っていきたいと思っています。そのため、作られた物や作り手の想いをちゃんと理解する必要があります。

価格は適正？

自分の基準を持つとう！

大林 高度経済成長の頃に、これからの家屋の建築が増えることを想定し、山では拡大的に造林が行われました。そして、関税が撤廃され海外から安い材も輸入されるようになりました。結果、拡大的に造林した時期に想定していた木材価格の設定とは異なり、安価に取引されるようになりました。費用や手間をかけた分を取り戻せる価格での取引が行えなくなり、林業が衰退していったように感じます。現在の国産材に求められるのは、「外国材と戦える安い価格での提供」なのが残念です。

辻 最近、当法人での発注価格がすごく安く見積られるので驚きます。環境



森代表、北川氏、小林氏(左から)



「そう、そう、それ、へんよねえ〜」と女子トークで盛りあがる。辻氏、

を考えた商品の提案をお願いしている
ので、普通より高値になるはずなのに。
業者の方が「安くなければ」と、自分
の首を絞めてはいないかと心配になり
ます。

北川 消費のための消費材を作ってる
わけではないんですが、それを分かって
もらうには体感が必要ですよ。

アーツ&クラフツ運動を提唱したイギ
リスのデザイナー、ウィリアム・モリス
氏は、産業革命後の大量生産・大量消

費を批判して、暮
らしの中にもっと
デザインを取り入
れようと思いました。

森 ほう、それは
素晴らしいですね。

北川 消費者や生
活者の意識を変え
ることはデザイン
だと思えます。私
たちは価格競争に
は勝てないかもし
れないけど、地元
産であることを気
に入って買ってくださる買い手さんをつ
くっていく必要があります。決して
高いものが良いと言っているのではな
く、自分の基準を持ってほしい。その
ためには子どものころから「本物」に
触れて自分の「好き」な基準を見つけ
てもらいたい。

森 自分の価値観を持つということ
ですね。自分が気に入ったものを永く使っ
ていく。「もったいない」という思想が
そこにはあります。

買い支えるための しかけづくり

森 買い手の意識について、企業と関わ
りのある辻さんはどう思われますか？

辻 セミナーなどでよくお話しするの
は、グリーン購入はバイコットとポイ
コットの組み合わせということ。

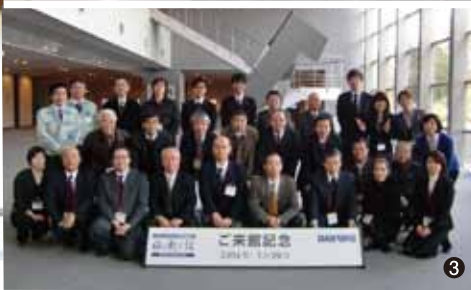
森 バイコットは拒否することですね。
バイコットとは？

辻 ポイコットの反対で、買うことに
よって支えるという意味の造語です。
ちよつとくらい高くても、「こっちの会
社の方が頑張ってるやん！」って感じ
たらそちらを買う。この考えをどう広
めていくかが課題です。

大林 なるほど。買い手の意識をどう
変えていくかですね。唐突ですが、家
訓って良いですよ。私は今の豊かな
暮らしができる日本を否定するつもり
はありませんが、その中で家訓がなく
なっていたことが残念に思います。

編集 家訓といえは、以前、M・O・H通
信の誌面でもいろんな世代のお母さん
たちに集まっていたとき、「家訓を考え







6



8



7

①2013年12月に実施された「三方よしエコフェスタ」(滋賀GPN) ②事業所食堂に地産地消を推進するフォーラム(滋賀GPN) ③会員交流も兼ねて行う事業所見学会(滋賀GPN) ④地元の小学校で「ふるさと学習」地場産業を伝える(ファブリカ村) ⑤かつての繊維工場の面影が残る空間(ファブリカ村) ⑥kikitoのCO2固定認証を行なった、地域材で建築された公共施設(kikito) ⑦小径木を有効活用した木製品(kikito) ⑧kikitoペーパーに生まれ変わる間伐材(kikito)

よう」座談会(3号2004年9月)を掲載しました。

大林 家訓は必要ですよ。北川さんがおっしゃっていたように、子どもの頃からの教育ってすごく大事だと思います。道徳教育がしっかりしていれば、精神から豊かな国になるはずですよ。

北川 その通りです。ねえ。

知る機会が
いっぱいあったらいいな

編集 M・O・日通信では、生産者と消費者をつなぐ「よばれやんせ湖北」というイベントを通して、伝統食や作る人の想いを伝える場づくりをしています。滋賀GPNさんにもお手伝いいただきました。

辻 よばれやんせ湖北は、食を中心に湖北の良いものを一堂に会す場です。ね。滋賀GPNでも昨年「三方よしのエコフェスタ」というイベントを開催しました。県産品を中心に集め即売も行い、ゲームも交えながら「環境を考えるってこういうことなんだな、こういうものを



買うと自分たちの暮らしの豊かさにつながるんだな」ということを自然な流れで気づいてもらおうという企画でした。今年も12月14日に大津で開催予定です。

北川 良いですね。道の駅も地元産のものがいろいろあっておもしろいですが、食べ物以外にも衣食住を含めた産品を、デザイン的にうまく表現できる場所をつくりたい。決して作り手のエゴではなく、買いたいと思えるようなものに…。

それぞれのネットワークがつながって、一緒にイベントとか組めたら良いね。森 そういう運動を皆さんでやりましょう！経済合理性の追求を目的とした社会・経済活動の中で、伝統的な地場産品で生計を維持することは大変だと思えます。目先の利益を重視するのではなく、しっかりと倫理観を核とした持続可能な社会を実現すべきではないでしょうか。そういった考え方は、どちらに思うのですが…。

北川 その通りです。でも今は何をやるにもお金が必要で、補助金がないと

ファブリカ製の絨(かすり)のタペストリーをバックに。バンフレットを持ってパチリ



活動できない状況もあるんですよねえ。**大林** そういう状況を救うのが消費者である買い手ですね。一人ひとりの意識を変えなくては(二同拍手)。

もつともつと届きたい 生の声

森 これからどんなことにチャレンジしたいですか？

北川 まずは使い手さんに作り手の物を知ってもらおう場を提供したい。きつ

かけがないと、知らなかったで終わってしまうので。できたら滋賀県の人には夏に麻織物を着てもらえるようにしていきたいなあ。ファブリカ村を、子どもたちの感性を育てる学びの場にもしていきたい！意識をデザインする時代にきています。

大林 私はkikittoの活動が雇用を生みながら、地域に根付いていけばいいなと思っています。昔の近江商人も、地域が困っているときに地域で仕事をつくって雇用を生み出したそうです。

人も地域の中で循環しなくちゃ。そんな仕組みづくりを、写真真でなく現実のものにしていきたいですね。

そして少しでも多くの人にkikittoの活動を知ってもらいたいです。

辻 私は、自分の仕事は女子マネ（スポーツクラブのマネージャー）やと思っ

継続は力なり 北川陽子

●きたがわよつこ11982年、嵯峨美術短期大学デザイン科染織グループ卒業、北川織物工場（家業）に就く。翌年より湖東繊維工業協同組合の産地振興事業「近江の麻展」に参加しながら、併で独自の表現を始める。1999年北川織物工場内に「耕工房 Fabrica」を併設。2

009年織物工場を改装し「ファブリカ村」をオープン。2010年、滋賀県のモノづくりを発信する「メイドイン滋賀プロジェクト」を始動。現在、湖東繊維工業協同組合理事、しが中小企業女性中央会会長など。

●ファブリカ村

滋賀県東近江市佐野町657

北川織物工場

TEL: 0748-42-0380

http://www.fabricamura.com

ています（笑）。主役は、選手である会員の皆さんですから、会員の皆さんの活動が広がるよう、そして、つながるよう、サポートしていきたいです。

一方で、一般消費者の皆さんにもっと活動を広めていきたいので、発信する場をどんどん増やしていきたいですね。

チャレンジ精神を 忘れずに！ 辻博子

●つじひろこ11新潟県生まれ、滋賀県在住。6年間のメーカー勤務後、一旦は専業主婦として子育てに専念。第二子就学時に再就職。教育出版社、広告代理店勤務を経て2001年より滋賀GPN事務局勤務、2013

年より事務局局長。滋賀県立大学大学院環境科学研究科修士課程在学中。環境省環境カウンセラー。滋賀県環境審議委員。近江環人。環人8プラス理事。

●一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

滋賀県大津市松本1-2-1

大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585

http://shigagon.gr.jp

kikito ごきげん！ 大林 恵子

●おおばやしけいこ11991年、父が営んでいた民間林業事業体が、法人登録したのをきっかけに、坂東林業へ入社。2009年、湖東地域材循環システム協議会副会長に就任。2011年、東近江市総合計画審議委員、奥永源寺振興計画審議

委員を務める。2012年より一般社団法人kikito代表理事、現在に至る。

●kikito事務局

滋賀県犬上郡多賀町中川原139-6

TEL: 総合窓口（担当：大林）

080-38802-1438

http://www.kikito.jp

森 皆さん、現場の声を消費者に届けたいという共通の思いがあるようですね。ぜひネットワークを活かして運動を起こしましょう！私は持続可能社会とは何なのかを追究し、それを広げる柱を立てたいです。

本日はありがとうございました。

森氏のプロフィールは16ページ





仕事が、仲間が、商品がおもしろい。おもしろい会社を目指すコクヨ工業滋賀。左から太田氏、前田氏、岡田氏

③M・O・Hレポート〈暮らしの中から未来を変える「more moh」〉

ヨシの紙で琵琶湖を守ろう!

無理せず続ける環境貢献のコツ

株式会社コクヨ工業滋賀

前田 賢一
代表取締役社長

太田 俊浩
総務グループ課長

岡田 佳美
開発グループ課長代理

ノートの定番として学校や職場・家庭で広く使われている「キャンパスノート」。製造元の「コクヨ」は全国に名を知られた文具メーカーですが、このキャンパスノートを年間1億冊も作っているコクヨの工場が滋賀にあることはあまり知られていません。

琵琶湖のヨシ（葦、地域によって「アシ」とも呼ぶ）刈りボランティア活動や、ヨシを使った紙製品の製造など、琵琶湖の環境保全に精力的に取り組んでいるコクヨ工業滋賀で、ヨシ紙にこめた思いをうかがいました。

■コクヨ工業滋賀（愛知郡愛荘町）

■2014年4月11日

継続的な環境貢献のため オリジナル商品を開発

コクヨブランドの紙製品を製造しているコクヨ工業滋賀の工場は愛知郡那野町にある。ここで作られるキャンパスノートは年間1億冊。ノートの生産量日本一を誇る。

ここで特に注目したいのが、コクヨグループの製品とは別に、コクヨ工業滋賀のオリジナル商品として2007年から開発製造販売している「ReEDEN（リエデン）」シリーズだ。

ナチュラルな風合いのノートや名刺、カラフルな表紙のノート、近江の麻を表紙に使った上質なノート、職人の技で天然のヨシから手作りされた筆ペンなど、さまざまな紙関連の製品はいずれも琵琶湖・淀川水系のヨシを使用したもの。「リエデン」というネーミングには自然と人間が共存し、多くの生命を宿す「楽園エデンをヨシで再び」という願いがこめられている。

「琵琶湖を抱える滋賀で事業をしていると必然的に、事業活動の中で何か環

境の役に立つことができなかと考えるようになります。寄付という選択肢もありますが、それでは景気が悪くなると継続できなくなるかもしれない。事業活動の中で環境貢献・地元貢献をしつかりやり続けられるようにという発想から『リエデン』は生まれました」

前社長から「リエデン」を引き継いだコクヨ工業滋賀の社長・前田賢一さんはオリジナルブランド誕生の経緯をこう語る。

「名刺はヨシパルプ100%にこだわる一方、ノートは中紙に1%だけヨシを含めることで、筆記適性に問題がなくコスト面でも問題がない、無理のない状況で広くお使いいただきたいと考

えて『リエデン』シリーズを作っています」

当初は「環境」を全面にだした商品を作っていたが、それだけではなかなか消費者に広く浸透していかない。どうすればもっと多くの人に手にとってもらえるのだろうか？

「試行錯誤していく中で、『環境にいいことだから』ではなくて、いいな、きれいだなと感じて買って、ノートを使っているうちに『あ、これはヨシの紙でできているんだな。使うことで環境にいいことしているのかも！』と気づききっかけになる商品はどうかと気かと皆で考えました」と話すのは開発グループ課長代理・岡田佳美さんだ。

2014年3月に発表したA5サイズ
のノート「ReEDEN color
rs SHIGA」もそうした新たな
チャレンジの一つ。ヨシを使用した中紙
に、滋賀をイメージした色の表紙をつ
けたカラフルなノートで、緑には「竹
生島」、紺色は「オオナマズ」など色
ごとのネーミングにも滋賀らしさを打
ちだしている。



「工場見学にお越しください」前田氏



ヨシを活用して循環させる ヨシ刈りプロジェクト

オリジナル商品の開発と並行して、冬にはヨシ刈りのボランティアを行っている。企業活動の中で環境貢献と地域貢献をいかに継続していけるか…その模索から「刈る・作る・使う」でヨシの活用サイクルを回そうというプロジェクトだ。

「2、3人だけで始めて、その後社内では40、50人集めたんですが、それだけではとても人手が足りなくて。そこで『ヨシでびわ湖を守るネットワーク』を立ちあげ、近隣の企業に協力をお願いして回りました。少しずつ会員が増えて、ついに今年、会員が100社になりました。地元環境団体にもご協力いただいて、今では毎回200人を超える方に来ていただいています」と、ヨシ刈りのネットワーク立ちあげに奔走してきた総務グループ課長・太田俊浩さんは笑顔で話す。

「冬場に身体を動かして気持ちのいい汗をかいて、風を爽やかに感じて。終わるとみんな笑顔になっているんです

① 巨大な巻取原紙から、高速でノートが作られる ② 積み付けられるところまで自動 ③ 生産数量年間1億冊。そのボリューム富士山100個分 ④ 工場全景。5月から工場見学オープン





5



8



7



6

5 ヨシ刈り風景。賛同する会社は100社にのぼる 6 ネットワーク会員様とのコラボ商品 7 ReEDEN colours SHIGA (リエデンカラースシガ) A5 8 しゅららぼんヨシノート㊦、麻とヨシのノート㊦

よ」と、とにかくとても楽しそうだ。
 毎年12月から2月にかけて東近江市の伊庭内湖、琵琶湖博物館そばの草津市下物町、近江八幡市の西の湖の3カ所でヨシ刈りが行われている。地元のみならず、滋賀だけでなく、県外から毎回参加する熱心なリエデンファンも。

ネットワークの活動を通して企業間の交流ができ、販促品などのパッケージにヨシ紙を活用してもらう機会も増えていくという。前田社長のいう「無理のない範囲で」の発想が、これからも末永く続けていくためのポイントとなっている。

子どもたちに琵琶湖への 思いを伝える「渡し船」に

ヨシ保全の活動から、雄琴の体験学習施設オーパルでのヨシ笛作りにも関わることに。天然の太いヨシを安定的に多数入手するのが困難な上に、形が不揃いで一定の音程を出すのがむずかしいと相談を受け、ヨシでできた紙を筒状にしたヨシ笛作りの教材を開発した。





ヨシ紙を使ったヨシ笛

「リエデンプロジェクトを進めるにあたって、私たちにはヨシの知識がありませんでしたので、まず近江八幡でヨシ卸を営む西川嘉右衛門商店併設のヨシ博物館の故西川館長さんや、葭留のヨシ葺き屋根職人・竹田さんにお話をうかがいました。その中で後継者不足の問題が浮かびあがってきて。ヨシを使った文具や教材という形で、子どもたちにも手が届く商品を作る。そのことで、琵琶湖の景観を守りながらヨシを活用している方々の思いを伝える『渡し船』のような役割が果たせたらいいなと思っています」と岡田さん。地元滋賀

での環境への関心をさらに高めていきたいと願っている。

創業の精神「カスの商売」!?

「コクヨグループの創業の精神として『カスの商売』という言葉が伝えられています」

前田社長の口から飛び出した「カスの商売」。カスって滓のこと？戸惑うような響きの言葉に、実はコクヨの創業の心意気がこめられているのだ。

富山出身の創業者が丁稚奉公したのは大阪の紙卸問屋で、大福帳の加工販売も手掛けていた。創業者は紙の商売をひと通り身につけ、大福帳の表紙だけを作る会社として独立した。刷毛で何枚も紙を貼り合わせて分厚い表紙を作るのは、非常に手間がかかるが儲けの少ない商売だった。独り立ちしようとしたとき、「お金になるいい商売はもうみんな他の人がやっている。面倒で厄介な残り滓みたいな仕事しかないよ」という周囲の声をバネに、「面倒で厄介な仕事でも、世の中の役に立つ

コクヨの歩み



のならやります」と新たな一歩を踏みだしたという。

このエピソードを聞いて、しっかり足場を固めて戦略的に、そして積極的に環境貢献に取り組んでいるコクヨ工業滋賀の姿勢に深く納得がいった。

最後にみせてもらったのが、胸ポケットに入るような小さなノート。キャンパスノートに不良品がでると「もったいない」ので4分の1にカットして社員のミニノートにしているそうだと。後ろには社内のキャッチフレーズ「買う身になって作りましょう」と、コクヨの昔のロゴマークが押されている。「富山出身の創業者が、故郷・富山の



キャンパスノートと不良品から生まれた社員用ミニノート。國譽の重厚なロゴが印象的

誉れになるという

意味をこめて『國

譽』と命名したん

です。そして、社

名をみるたびに

『自分の仕事は

誉れのレベルで

きているか?』と

自問自答したと

聞いています。私

たちもそういう

気持ちで仕事を

したいと願って、

手帳を社員に配っ

ているんですよ」

環境について、

そして、もった

ないの精神など

共通点が多くみ

かったコクヨ工業

滋賀と『M・O・

H通信』。いつか

コラボが誕生す

かも!という期待

がふくらんだ。

桃李不言

下自成蹊

前田賢一

●まえだ けんいち 1969年長崎県長崎市生まれ。1992年コクヨ株式会社入社。生産管理を皮切りに、本社スタッフや東京での営業職なども経験。生産調達部長を経て、2013年より現職。趣味はスポーツ全般(剣道五段、野球・サッカー・ゴルフなど)。

つながり
太田俊浩

●おわたとしひろ 1957年滋賀県生まれ。1980年コクヨ工業滋賀入社。生産管理を皮切りに事務現場を経験。現在、総務グループの一員として主に環境担当を受け持つ。当社主催の「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」の事務局兼代表を務める。

ヨシ具で
広がれ
環境の輪
Yoshimi

●おかだ よしみ 1979年滋賀県生まれ、滋賀県立大学工学部卒業。2002年コクヨ工業滋賀入社。大好きな文具の開発をしたいという強い思いを受け、入社時に新設してもらった開発グループにて夢を実現中。今年2月に育休から復帰し、ワークライフバランスに奮闘の日々。好きな言葉は「頑張る(頑張る×)」。

●株式会社「コクヨ工業滋賀 滋賀県愛知郡愛荘町 上牧野312
TEL:07499373611
工場見学専用ダイヤル:
07499378017
<https://www.kokuyo-shiga.co.jp>





糸張り行程で出来をチェックする橋本氏

守り続けて次代を創る

—— 強みを活かして市場開拓

橋本 英宗

丸三ハシモト株式会社 代表取締役社長

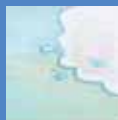
● 三味線、琴、琵琶などの和楽器に使用される「まねひん絹絃」。丸三ハシモトはこの絹絃の製造技法を100年以上守り続け、近年では海外の楽器の絃も手掛けるなど、その実績は世界各国からも注目を浴びている。「小さな会社だからこそ、できることにこだわって挑戦する」— その原動力を橋本さんにうかがった。

■丸三ハシモト（長浜市木之本町）

■2014年4月7日



ウコンで染色された三味線の絃。
鮮やかな黄色



絹絛の老舗 丸三ハシモトとウチ会社

事務所を訪れると大きな掛け声とともに「カラコロ カラコロ」と、お箸を擦りあわせたような音が鳴り響いていた。糸を擦りあわせていく「独楽擦り」と呼ばれる作業だ。建物の幅に目いっぱいピンと張られた糸の先に独楽が付いており、その柄を二人の職人が見事な連携プレーで擦りあわせることで、糸に擦りを掛ける。昔から伝わる製法だが、今は丸三ハシモトで行われていない。年季の入った手作りの木製道具には歴史が宿り、職人の真剣な眼差しが向けられている。

丸三ハシモトは1908年の創業以来、和楽器の絛の伝統を守り続ける、全国でも数少ないメーカーの一つ。糸の太さや色、楽器の違いによってつくられる絛はおよそ350種類、その製造工程のほとんどが手作業で行われている。ナイロン製などの化学繊維のものが普及する中でも、絹絛の深みある音色を求めるファンは多い。

今年3月にはその伝統技術や技術継承が評価され『平成25年度伝統的工芸品産業大賞』で準グランプリ・作り手部門を受賞（一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会主催）。海外の絛楽器にも目を向け、昨年から開発した絹絛を中国へ輸出するなど、幅広い視野で挑戦し続けている。

守って破って離れる！ 職人の世界

絛をつくる工程は『練り糸』『合糸』以上存在し、作業には繊細さを要する。一通りの製造工程を覚えるだけでも10年以上かかるという職人の世界。「私らは10人ほどの小さな会社ですが、全員がいろんな工程をこなす技術を身に着けなければなりません。技の習得は、数年じゃとても足りない。私も一つひとつの行程を『こういう作業をするからこんな音が鳴るんや』と理論づけながら覚えていきました」と代表取締役社長の橋本さん。大学卒業後

から稼業に専念して修行を積み、この道17年。2012年からは4代目社長として経営を担っている。

橋本さんが伝統を守るうえで大切にしているのは『守破離』という考え。武道の世界でも知られる言葉だ。

修行の際、まずは師匠からの教えを忠実に守って同じようにやり『守』、そこから自分の応用をつけ『破』、それらを極めた後に師匠の教えを離れて独自のものを生み出すこと『離』、を意味する。

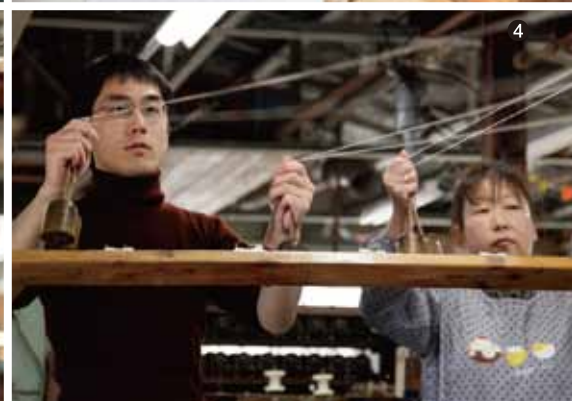
「何事も基礎が大事。先走ると失敗してしまいます」

先代から基礎を学び、その技術を活かして海外市場にも飛び込んだ橋本さんは、現在『破』の段階にいるという。

伝統を守るために… 海外へ進出したきっかけ

次代の経営について橋本さんは悩んでいた。いくら良質の絹絛をつくったとしても、それを使う演奏家がいなければ会社は存続しない。近年減り続ける







9



8



11



10

①糸を巻き替える ②糸を整える ③独楽燃りの独楽 ④糸を引っ張り揃える ⑤乾燥中 ⑥板付け ⑦独楽燃り作業 ⑧染色した後に糊で炊き込む ⑨糸を柱に張り付ける ⑩⑪不要な糊を拭き取る

和楽器の演奏人口に危機感を覚えていった。

「私たちは小さな企業だからこそ、生き残るためには強みを活かし、いかに特徴を出せるかが重要です。経営が悪化して日本の絃楽器がつかれなくなる事態は絶対に避けたい。そのためには市場を増やして他の柱をつくらなければ」

そこで橋本さんの視野は、新たな楽器絃への挑戦、そして海外市場へと広がっていく。

「日本で絹絃をつくっている会社は私どもを含めて数件しかありません。でも、もし海外に絹絃メーカーが多くあるのなら、すでに輸入品があふれて淘汰されてしまっているはず。ということとは、世界でも絹絃をつくっているところは少ないのではないかと。世界の楽器も見て、いろいろチャレンジしてみようと思いました」

2010年頃から新しく取り組んだのが、ギターなどの洋楽器やウクレレの絃、韓国の琴絃の開発。糸にねじれを加えたウクレレ絃は、伝統技術を生かした新しい製品として注目を浴びた。



商品化まであと一歩というところで実現しなかった製品もあるが、洋楽器の絃や違う国の製法にトライした経験は大きな学びだったと橋本さんは当時を振り返る。

シルクロードがつかないぞ 中国と日本

そうして行きついたのが中国市場だ。2011年より上海で行われた国際楽器展覧会『MUSIC CHINA』に出展、中国伝統楽器絃への進出が始まった。昨年には研究を重ねて完成した中国の伝統楽器・古琴の絹絃を披露し、すでにスチール絃が主流だった中国楽器に、日本では途絶えていた伝統的な製法を復活させたとして、中国をはじめ台湾などの製作家や演奏家からその品質に高い評価を受けた。これを機に中国への輸出が本格化する。

3000年の歴史をもつ古琴は日本では七絃琴と呼ばれる。高度な技術を要する演奏方法は、ユネスコの無形文化遺産に登録されているほど。太さの

違う7本の絃から音階をつくり、第一絃から第四絃までの芯糸に細い絹糸を巻きつける、纏糸という製法を用いる。完成までに手間がかかり、大量には作れないのだが、細かく均一に巻かれた絃の表面は美しく、まさに職人技。

日本ではその製法が伝承されてこなかったため、文献調査や聞き取りを繰り返し、ようやく完成させた珠玉の製品となった。

「日本の琴などはもともとシルクロードを渡って中国から運ばれたもの。だから私は、中国の楽器には敬意を払いたい。私たちが守ってきた絹絃の製法で、古き良き音色をもう一度中国に届けることができたことは、とても嬉しいです」

ビジネスを越えた文化交流として、伝統技術をつなぐ仕事の意義を深く感じたそうだ。

こちらから懐に入っていくととても良い関係が生まれるのだと橋本さんは言う。

「私は中国の楽器に敬意を表し、積極的にコミュニケーションをとるからこそ、良い信頼関係が築けたんだと思っ

ています。まあ、中国語も英語も話せないんですが…(笑)。通訳は信頼できる知人にお願ひしています」

ものづくりに対する熱意が国を問わずとも相手の心に響くのは、きっと橋本さんの魅力だろう。

「絹絃をもっと極めたい」 東京オリソニックに期待!

夢は、小さくても魅力があつて、一日置いてもらえらるような会社にするのと話す橋本さん。

「絹絃をつくる会社が少ない中で、海外の様々な楽器の絃もつくっているところはおそらく当社だけ…これは最大の強みです。絹絃を使っていればどんな楽器でも挑戦してみたいし、もともと絹絃を極めたい。海外に出ること(イコール)良いこと、ではなくて、いろんなことへの挑戦は、知識や技術となつて会社へ持ち帰ることが出来ます。もちろん、日本の伝統文化を継承することが最大の目的です」

基本は無茶せず、できることをやっ

いきたいと話す橋本さんが、注目しているのは、2020年の東京オリンピック。「2008年の北京オリンピックでは、開会セレモニーで古琴が登場し、中国の国内外で注目されました。外の人から『あの楽器はなんだ?』と言われたことで、初めて古琴を知った中国人も少なくないのです。外から評価されることで、ものの価値に気づかされることって多いですよ。東京オリンピックでも、日本の伝統文化をアピールできるチャンスだと思っています」

日本の伝統文化を発信することで、国内外に魅力を発信し、文化継承の促進を期待している。歴史を守ってきたからこそ、未来へのヒントがあった。

地域の人の誇りになれば...

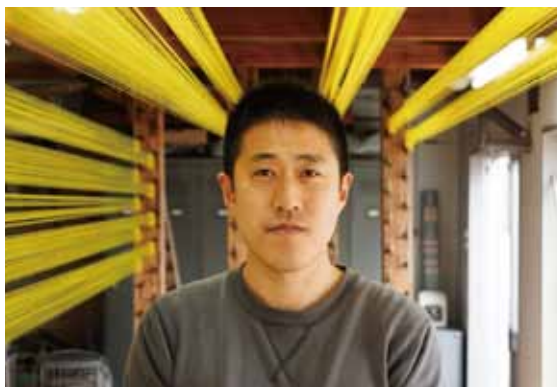
最後に、丸三ハシモトの拠点、長浜市木之本町についてうかがった。

「まだ地域貢献ということはできていませんが、ここに丸三ハシモトがあることが、地域の誇りにつながれば良いな

と思っています」

木之本町は古くから北国街道の宿場町として栄え、街並みも美しく、商家や造り酒屋をめぐる観光地としても人気の場所。

「木之本は個性が強いです(笑)。それぞれ事業者の独自性がある。別に統一化される必要もないし、ただそこにみんなが住んでいて、そこで生活していることが重要だと思います。近くに



「世界一有名な絹絃メーカーを目指します」

仲間がいて、お互いに刺激し合えます。だからおもしろい」

橋本さんの原動力は、ものづくりへの情熱と探究心、そして刺激し合える仲間の存在にあるようだ。

修身齊家

治国平天下

橋本英宗

●はしもと ひでかず 1974年滋賀県生まれ。立命館大学経営学部卒業後、丸三ハシモトへ入社し和楽器糸製造全般を学ぶ。2010年滋賀県より「経営革新計画」の承認を得たのを皮切りに開発分野を海外の楽器にも目を向ける。2011年より2年連続で上海で行われた国際楽器展覧会に出展。翌年には中国伝統楽器・古琴絹弦の開発に成功。その製品が評価を受け、北京の著名な製作家と代理店契約を結び、本格的な輸出が始まる。

●丸三ハシモト株式会社
滋賀県長浜市木之本町木之本1049
TEL: 0749-821-2169
http://www.marusan-hashimoto.com





琵琶湖のヨシで壁を葺いたカフェ付き住宅(2013年、滋賀県湖南市菩提寺／写真:浅野 豪)

藁の家で 忘れた豊かさを取り戻す

大岩 剛一

建築家・スローデザイン研究会世話人

手間をかける暮らしは豊か

日本の在来工法の家は、紙と木と土と竹と縄でできている。あの「三匹の子豚」に登場する木の家である。今回ご紹介するのは、稲やヨシなどストロー状の植物資源で作る藁の家。だがオオカミに吹き飛ばされない頑丈な家だ。手間暇かけてみんなで家を手作りする楽しさと喜びが共有できるなんて、しあわせだなあ。そんなライフスタイルの提唱者が増えてきた。本誌3号の「わらの家 ストローベイルハウス」(2004. 9)に滋賀大学の中野 桂教授の自宅を紹介したが、あれから10年、ストローベイルの環が広がっている。



■ 近江学研究所『紀要』第3号

- 執筆者／大岩剛一、永江弘之、大原歩、石川亮、小寺善通、加藤賢治
- 発行／成安造形大学附属近江学研究所
- 内容／本誌登場の大岩氏はじめ、6名の研究員の論文を収載している。

ストローベイル (strawbale) とは直方体に圧縮した藁のブロックのこと。厚さ40センチメートルもあるこのブロックを積んで厚い壁を作り、土を塗るとストローベイルハウス、通称「藁の家」と呼ばれるほのぼのとしたエコロジカルな家ができて上がる。この家には優れた断熱性と調湿性、蓄熱性がある。太陽エネルギーで室内環境を快適に保てる省エネ建築だ。しかも有害な化学物質を使わないから身体にもよい。材料の調達から運搬、製造に多大なエネルギーを使わずにすむ。最後は大地に還る環境循環型の持続可能な建築だ。

でもこの建築の良いところは単に健康や環境への負荷が小さいことだけではない。藁の家は手間がかかるが、私たちの暮らしの中でいつの間にか失われ、忘れられていった大切なものを思い出させてくれる。

田んぼと森から始める 家づくり

量産品や輸入材を使う住宅が当たり前になって、建材のふるさどが見えなく

なった。家が、近くの森や竹藪、田んぼや水辺から切り離されたのだ。ぼくの家づくりは、地域を歩いて回る素材探しから始まる。

藁は日本人の生活文化に深く根ざした循環型の素材。だから、藁という素材をもう一度私たちの住文化の中に取り戻すことには大きな意味がある。ストローベイルハウスは北米生まれ。だがぼくの藁の家は稲藁やヨシ、竹、土、石、粉殻などの、高度成長とともに忘れられた地域の素材を国産の木と組み合わせ、地元職人たちのエコロジカルな知恵を取り入れながら、伝統的な技術を応用してつくる。単に欧米のまねではない、私たちの足元と地域を見つめ直す家づくりであり、住と農をつなぎ直す試みだ。

藁の家づくりのスタートは初秋の稲刈りが合図。田んぼで収穫した藁は稲架に掛け、ゆっくり天日干ししてから圧縮してブロックにする。ハウスメーカー主導の住宅建設ではより速く、よりたくさんが競われる。ところがこの家は旬の建築。人間の都合ではなく、大自然のリズムに人間の方が合わせる家づくりなのだ。

みんなでつぐれば楽しい

今や家づくりは専門家任せ。住まいと住み手のつながりは希薄になった。これでは家に対する本当の愛着は育たない。藁の家では建主が率先してワークショップを企画し、家族はもちろん友人や地域の人たち、職人さん、ボランティアにも協力してもらって藁を積み、土を塗る。だがそれを煩わしいと感じる建主には難しい。それどころか素人が建設に参加するのだから当然ミスもある。建物の完成度も落ちるかもしれない。つまり念願のマイホームを素人の手に委ねるには、そこに価値を認める別の視点が建主に求められる。

ぼくも建主の立場でワークショップをしたことがあるが、結構大変だ。でもやってみるととても楽しい。さまざまな意識をもった人たちが遠方から自分の意志でやって来て、素材に触れ、汗を流し、友だちをたくさん作って帰っていく。人や地域とつながりながら自ら家づくりに参加することは、住まいに対する考え方を大きく変える。家とは何か、家をつくる





とはぐついついこのことを考えざるまつかげになるからだ。藁の家の工事現場は、人とのつながりを生み、家への愛着を育み、ものづくりの喜びを知る広場になる。

小さな命とつながって

子供の頃はエアコンも網戸もないから、夏の開放した部屋の中にいるような虫が自由に出入りしていた。かといって騒ぎ立てる者もない。家族にとってそれはごく自然で当たり前の風景だったから。当時の人々の心にはそれを楽しむゆとりがあり、住まいには小さな命と共生できる豊かさがあった。

今日の化学物質を多用した量産化住宅には虫や小動物はめったに寄りつかないが、建物が丸ごと里山的環境になっている藁の家では、家そのものが地域の生態系の一翼を担う。だからいろいろな生き物が集まって来る。こつこつと尻込みする人が多いが「自然住宅」なんだから仕方がない。安全な家と危険な家の違いが、生き物たちにはちゃんとわかっているのだ。藁の家は命を育む里山。私たちが小さな命と出会う場所。好きな命

と嫌いな命をつい天秤にかけてしまう。私たちの自然観が試される家なのだ。

腐る家に住む豊かさ

「藁の家を建てようと思った動機は、腐る家に住みたかったから」。ぼくが最初に設計した琵琶湖のほとりの藁の家の住人、中野桂さんの名言だ。「自分のツケを誰かに回さずに済むように。負のものを未来に残さないように。でも少しでも長持ちさせたいから自分たちでメンテナンスできる家に住みたかった」。だから腐らない家ではだめなんだという。

変色しない木。反らない板。ヒビが入らない土壁。そして腐らない(賞味期限の異常に長い)食品。私たちの回りには、そんな奇妙な「自然」があふれている。社会全体がいつの間にか、腐るこつこつまり死に至る命のゆるやかなプロセスを極度に恐れる文化に変わってしまったのだ。中野さんの言葉は、人と自然をめぐるとんないびつな関係を鮮やかにあぶり出す。

エコロジーとは命とつながること。朽ちて再生し、循環する、命の豊かさを謳歌する生き方のことだ。ゆつくり呼吸する

藁の家は、大地の記憶を呼び覚ましながら、こつこつ美つじ「エコ」ジカ的な暮らしを満喫させてくれるにちがいない。

乾いた荒壁にはいろいろな虫が集まってくる



- ① 稲刈をして藁を収穫
- ② 収穫した藁を稲架に掛けて天日干し
- ③ 乾いた藁を圧縮してストローベイルにする
- ④ ストローベイルを棕櫚縄で木部に固定
- ⑤ 琵琶湖のヨシで室内壁の地下(小舞)作り
- ⑥ 押切で藁スサを作る
- ⑦ 藁スサを混ぜて土作り
- ⑧ ヨシ小舞の上から荒土を塗る

懐かしい未来の藁づくりに 大志を掲げよう

● おおいわ(こつこち)＝東京都生まれ。大志剛一住環境研究所代表。環境文化NGO ナマケモノ倶楽部世話人。2013年3月まで成安造形大学で教鞭。成安造形大学付属近江学研究所客員研究員。2001年よりスローデザイン研究会を主宰、圧縮した稲藁を使ったストローベイルハウスの研究と普及に努める。主な作品に「善了寺聞思堂」「琵琶湖の家」「菩提寺の家」「カフエスロー」。著書に絵本「わらの家」、「文化誌近江学」対談連載中。

● スローデザイン研究会
http://www.slowdesign.net





小金澤 一美

医療法人白櫻会小金沢歯科診療所 理事長

長生きしすぎたわ、ワテぼけてないで

80才を迎えようとする義母が「長生きしすぎたわ」とつぶやいた。少子高齢化の波はいやおうもなく、我が家に押し寄せる。家族と暮らせない人もいるだろう。定年後の生き方を探している人もいるはずだ。不安と戸惑いが脳裏によぎる。そんな時「第三の人生をみんなで作っていきましょう!!」という、超元氣印の女性に出会った。歯医者さんである小金澤一美さんが高齢者向けサービス住宅を開設した。しかも小規模多機能型居宅サービスと訪問看護をセットにしたというのだ。…つまり、65才以上で援助付きの集合住宅に入居もできるし、家にいながら、通い・泊り・訪問の介護サービスを受けることもできる。いろんなパターンにお応えしますという、介護のか・た・ち。新しいコミュニティができるかも…。

⑥ 寄稿へ暮らしの中から未来を変える「more more」 新しい介護のか・た・ち



手作りのリーフレット

⑥ 定年過ぎたりは皆で暮らしていこう

4月1日にサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「リバティ桜の花」と複合型サービス「ひなた」を開設しました。複合型サービスは滋賀県では初めての開設です。

サ高住とは、バリアフリーで各個室にトイレや水回りがあつて体が不自由になつても安全に生活できる集合住宅です。内廊下ですので、学生時代の寄宿舎の雰囲気があり、入居された高齢者さんがそれぞれの部屋を訪問しあう風景もみられます。

サ高住自体が提供する「サービス」は安否確認や外部との取次など「コンシユルジユサービス」です。これは、介護の必要性に関係なく65歳以上の方が入居できるといふシステムに由来します。また、介護が必要であれば、個々に介護保険サービスを依頼します。「サービス付き」と言つても、家事援助や介護サービスはついていません。これでは間違つて認識されるので「サービス付き高齢者向け住宅」というネーミングは改める必要

があるのではないかと考えています。

「困った」を「サービス料に転嫁しない」

また、サ高住では利用する介護保険サービスをよく考えないと、何かに困つて援助を申し出るとその都度サービス料が発生することになりかねません。入居される方の弱みをお金に変えるようなシステムでは安心して住み続けることはできません。

「一カ月定額制」「通い」「泊まり」「訪問」

そこで、一カ月の利用料金が定額制でオールインワンの介護保険サービスを併設させることにしました。これに該当するのが小規模多機能型居宅介護と看護部門が強化された複合型サービスです。小規模多機能型居宅介護は介護や援助が必要となつた高齢者が、住み慣れた家や地域での生活を継続するために、ひとつの事業所の職員から「通い」「泊まり」「訪問」などのサービスを包括的に受けられます。

「人付き合いを深く優しく」

通所時間は決まつていないので9時にお迎えに行つたり11時にお迎えに行つたり、また、16時にお送りしたり、20時にお送りしたり、2時間だけ来られる方、数日泊まつていかれる方など様々です。

国道1号線からもよく目立つリバティ桜の花





2



3



1

1 21事業所のブースが並ぶ内覧会 2 全館バリアフリーで廊下には手摺 3 座ったままお風呂に入れるリフト浴



譲りあい、支えあい、楽しく

入居に先立ちご本人、お出会いた



訪問介護も

リハビリ桜の花にはこの小規模多機能型サービスに訪問看護のついた複合型サービスを併設させました。高齢者さんの不安の多くは夜間の孤独と健康に関するものです。看護師がそばにいることは大きな安心につながるものと思います。

「親戚の甥っ子や姪っ子におばあちゃんを預けたみたいね」と言っていたいただきました。当法人では、これまでに小規模多機能型サービスを3か所運営してきました。

いつも顔なじみの職員がいますのでアットホームな雰囲気が生まれ、なじみの利用者さん同士の買い物や外食に同行することもあります。職員は常に「この方に障害や病気がなかったらどのような生活をされているか」を考えています。また、疎遠になりかけている地域の方々と、利用者さんとの関係を再構築することも使命だと思えます。以前あるご家族さんに「親戚の甥っ子や姪っ子におばあちゃんを預けたみたいね」と言っていたいただきました。当法人では、これまでに小規模多機能型サービスを3か所運営してきました。

4 大きな窓のあるサ高住の居室内 5 複合型サービスのリビング 6 複合型サービスケア風景



6



4



5

ご家族の方にリハビリの花の目指す姿への協力をお願いしました。

「リハビリの花でお姫様やお殿様のよ
うな生活はできません。袖すりあうも
多少の縁です。同じ屋根の下に住むなら
さらに大きな縁があります。入居者さ
ん、家族さん、職員も隣人としてフラッ
トな関係の中で生活の場を作り上げてい
きたいと思っています。入居される方、
ご家族にも助け合い、譲りあいの気持ち
を持っていただきたいと思います。ご家
族が来られた時にはボランティアさん
のつもりで他の入居者さんにも声かけ
や可能な範囲のお手伝いをお願いしま
す。行事にもボランティアさんとして出
席していただければ幸いです」。



介護保険制度を 共助で負担を軽く

複合型サービスを利用される皆さんに
は、「要介護5の方を家庭でヘルパーさ
んが昼夜つきつきりで介護する」と一カ月
で120万円程かかります。介護保険を
使っても90万円近くかかります。本事業
はその方を公的保険を使って33万円前

後に抑えます」。

その仕組みを説明します。「入居者さ
んと介護者が1対1ではありません。
夜勤は1人で最大9人を支えます。日
中は1人で3人を支えます。人員基準
や施設基準のある中で精一杯工夫や努力
はしますが、譲っていただくことや我慢
していただくこともいろいろとありま
す。皆で折り合いをつけながら暮らして
いくことをご理解いただきたいと思います」。私た
ちは、孤独な晩年生活ではなく、皆でつ
くりあげる賑やかな暮らしにしたいの
です。



助けあいを喜びに

超高齢化社会となった我が国では、
互助の精神がないと暮らしていけなく
なっています。今日助けた人に明日は助
けられ、なによりも「人のお役に立て
る喜び」はいつまでもいきいきと生活
する根源となるものと確信しています。



自治会ができるかも

少し落ち着いたら「リハビリの花」
には小さな自治会ができるかもしれま

せん。企画部や行事部、文化部など入居
者さんが運営されるのを若いスタッフ
がサポートする…高齢化が進み、地域力
が弱くなってしまった今だから、若い人
のバックアップでその人らしい生活を続
けてもらう、そんなサ高住を目指して
いきたいと思っています。

やってみ あかんかったらやり直せ! 小金澤 一美

●こがねざわ ひとみ
■大津市を中心に在宅
歯科診療を始めて
20年。出会った嚥下
障害の患者さんに「食
べる支援の拠点」が必
要と、歯科医院の隣
に介護施設を開設。
自宅に続くグループ
ホームや小規模多機
能型居宅介護で当直
や看取りもする歯科
医師。

●リハビリの花

滋賀県大津市別保一丁目8-33

【問合せ】

○医療法人白櫻会小金沢歯科診療所

TEL:077-5446-5167

<http://hakuokai.jp/>



⑦ 寄稿く暮らしの中から未来を変える「more moh」



涼しい部屋にみんなが集うクールシェアは、節電にもなり、交流の場にもなる♪

おうち節電 アクションプロジェクト の紹介

内藤 正明

琵琶湖環境科学研究センター長

節電って仕事や暮らしに制約がかかるとイヤだなあ

と、思っている人は少なくないでしょう。つまり多いでしょう。あなたは覚えているかしら？ 東日本大震災後の猛暑を。日本全国で明かりを消し、水を打ち、緑のカーテンを育てたことを。おうち節電アクションプロジェクトもその一つ。さて、その成果は？ ちょっと気になるところ。夏を前にして、データ解析をお知らせしよう。今年の夏は、どーなんかなあ？

背景

平成20年に策定された「持続可能な滋賀社会ビジョン」の中で、滋賀県地球温暖化防止活動推進センターは、行政やNPO、地球温暖化防止活動推進員と連携して、エネルギー削減活動に関わってきた。特に、東日本大震災後には県民の節電努力を強力に支援してきた。

ここに紹介する「おつみ節電アクションプロジェクト」は、そのような活動の一環として、平成24年、25年の2カ年にわたって実施された、県民参加による夏の節電事業の結果である。環境省の助成による全国的な事業であったが、滋賀県はこの実績あるセンターと意識の高い県民のお蔭で、その成果は各府県市からも大きな注目を集めた。このデータ分析に筆者らも加わったので、その一部をM・O・Hの読者にもお伝えしたい。

プロジェクトの概要

このプロジェクトは、滋賀における家庭の節電を目的に、市民への教育・啓発が節電行動にどのような効果があるか、

またその節電と、家庭状況、個人意識など、がどのような関係にあるかを、量的な分析によって把握しようとしたものである。

いくつかの興味深い結果が得られたが、紙面の関係で、皆さんが面白いと思われるような内容を選んで紹介してみる。

プロジェクトの成果

A. 家庭での節電の結果

(1) 家庭での節電は量的にどれくらいか

平成24年のプロジェクトでは、家庭で努力した結果0.93%程度の節電という結果であったが、家庭での電力消費には気温が大きく影響するので、この年の暑さを補正すると、実質は3.61%と推定された。これは節電効果としては決して小さいものではない。ただし、CO₂削減量で見ると平成24年は一人当たり0.7kg・CO₂、平成25年は2.8kg・CO₂程度であり、日本人当たり年間約10tに比較すると、それぞれ0.007%、0.03%ほどに当たる。これからすると、さらに桁違いの努力が必要であることが分かる。

(2) 節電に向けた

さまざまな取り組み効果

節電といえば、電気製品を省エネタイプに買い替えるというのが、思い浮かぶだろう。平成25年の調査で得られたデータから、エアコン・冷蔵庫・照明(LED・蛍光灯電球など)・テレビのいずれかを買い替えた場合にも、相当の節電効果が確認できた(図-1)。

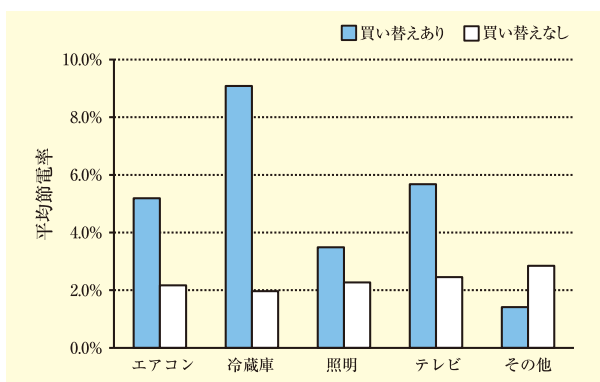


図-1 過去1年間での家電製品の買い替えと節電の関係



(3) 世帯と消費電力の関係

世帯人数が増えると、一人当たりの消費エネルギーが大きく減るといわれるのは周知のことであるが、平成24年の調査データでも、四人家族の一人当たりの電力消費は一人暮らしの半分程度(図1)で、これは様々な節電の努力をはるかに上回っている。

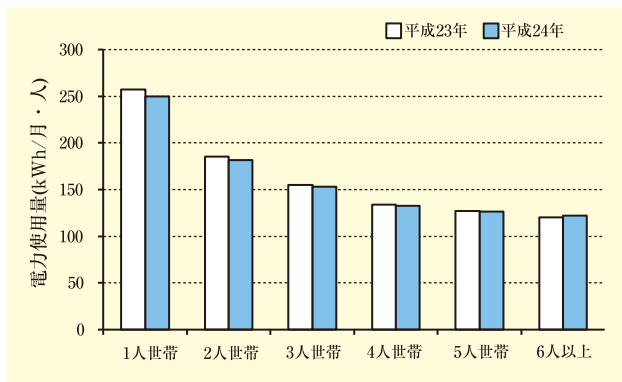


図-2 世帯人数別一人あたり電力使用量の比較

(4) ペットが家族

ペットの有無が節電に大きく影響することということが平成25年の調査で明らかになった。新たにペットを飼い始めた家庭や、ペットがいなくなった家庭の2カ年のデータ比較から、ペットが家族の一員としてその電力消費にも大きな影響力をもっていることが確認できた(図3)。

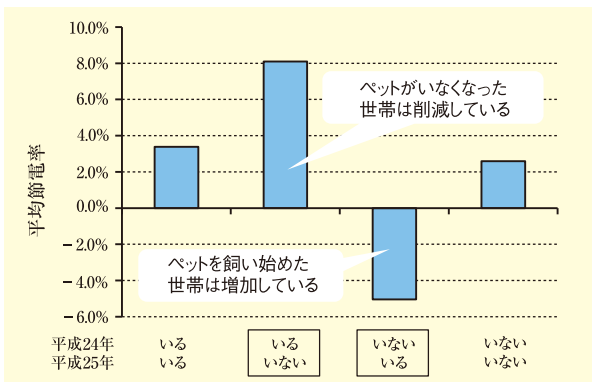


図-3 世帯人数別一人あたり電力使用量の比較

人間は我慢できるが、ペット(特に犬)は冷房なしに置いておくことはできないという回答があったように、いまやペットは家族以上であり、今後はペット向けの省エネ対策や省エネグッズなども必要であることが分かった。

B. クールシェア事業による節電効果
 家庭内での節電には限界があるので、平成25年のプロジェクトでは次の段階として地域レベルの行動「クールシェア」という試みがされた。これは地域にクールスポットを設けて多人数がシェアするもので、大家族では一人当たりエネルギー消費は少ないことこの延長上にある。

(1) シェアによる節電効果とCO₂削減効果
 クールスポットとして、マンションの一室または地区内の拠点に居住者が集まって、暑い時間とともに過ごすのが効果が高いことは予想通りであった。一方「郊外のイベント会場」に集まるシェアは、大半の参加者が車で来ることになるので、節電の効果はあるが必ずしも

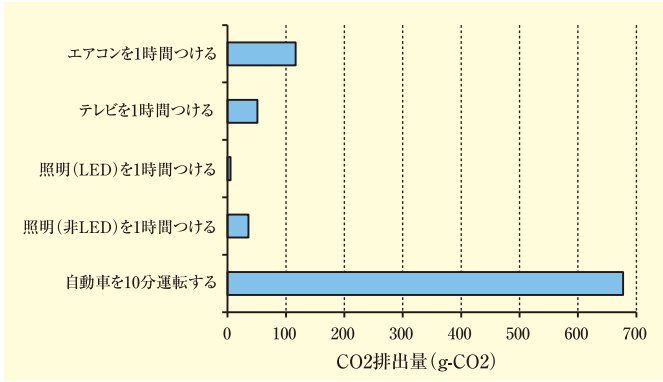


図-4 家電製品と自動車の利用によるCO2排出量の比較

CO₂削減にはならないことが明らかになった。このことは、家庭での節電によるCO₂削減とクルマの削減量のデータ(図-4)からも推測されるが、結論はクルマを使うのであれば、どんな節電をしても低炭素社会に向けては意味がなからぬ。

(2) シェアが集まることの様々な効用

このシェアは災害避難ではないので、ただ皆で寄り合って暑さが過ぎるのを待つというのではない。日頃から接点の乏しい地域住民が、お茶や食事を共にして、交流を深めることが期待される。実際そのようなことが起こり、またそれが評価された。さらに、その場に、銀行、診療所、役所などの窓口が開かれて、交通弱者が遠方まで出かけずに済むなら、省エネだけでなく、災害時にも役立つ弱者に優しい社会への一歩である。

かつては街の中に誰もが気楽に立ち寄れる空間があつて、そこが地域の交流や災害時の拠点としても役立つてきた。しかし近年では都会はもろろん、田舎でもこの種の場所がなくなってきたので、最近「街の縁側」と呼ばれるような事例がいくつも見られるようになってきた。結局、節電も絆の再生を通じて、地域防災、福祉、環境・文化の再興など、様々な新たな豊かさを取り戻す行動とセットで行っていく段階に来ているというところである。

※なお、この面倒な分析作業は岩川貴志(循環共生システム研究所 研究員)が担当しました。

知足
内藤 心明

●ないとう まさあき 1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年同工学博士、1974年国立環境研究所主任研究官、1990年同統括研究部長、1995年京都大学工学研究科教授、2002年同大学院地球環境学舎長。
現職／佛教大学社会学部教授、琵琶湖環境科学研究センター長、京都大学名誉教授、(NPO)循環共生社会システム研究所・代表理事、(NPO)KES環境機構・代表理事、他。
著書／『持続可能な社会システム』、『地球環境と科学技術』岩波講座など。
活動／持続可能社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動。



⑧ 寄稿く暮らしの中から未来を変える「more moh」)

古写真活用プロジェクトと ひまわりプロジェクト

奥野 修

環人ネット・住みよいまち&絆研究所



すみよしタイムトリップ(住みよいまち&絆研究所編、デザイン 竹岡寛文)

古きを訪ね新しきを知る

先日親戚が我が家を訪ねてくれたとき、「50年前のお稚児さんの写真があった」と、一枚の写真を手渡してくれた。そこには曾祖父と曾祖母と孫とご近所の方とお寺さんが、鎮座していた。少し老化気味の義父が写真を見て、あの頃の話を語りだす。写真って偉大ななあ。今、古い写真を使って地域の愛着を取り戻そうというプロジェクトが大阪で始まっている。また、東日本大震災の記憶を風化させないために、ひまわりを育てようというプロジェクトも動き出した。

近江環人のネットワークから誕生した2つのプロジェクトについてご紹介いたします。年間を通して開催されているプロジェクトです。

●古写真活用プロジェクト

「いつも見慣れたこの街を 古写真片手にめぐってみれば いつもと違った風景が見えてきた」。これは住みよいまち&絆研究所が古写真活用プロジェクトで使っているキャッチフレーズです。

同研究所は、2010年7月4日に滋賀県立大学の近江環人地域再生学座の修了生や関係者で大阪を拠点に置く仲間を中心に設立された住まい・まちづくりのNPOです。住み良い地域社会と町並み形成を市民の絆によって育てていくことを目標に、これまで上町台地タイムトリップや東成タイムトリップなど古写真を活用したプロジェクトやコミュニティ・アーキテクト（まちの建築家）間の学習会、ネットワークの構築等に取り組んできました。

古写真に光を当て、それらを保存・活用することにより、地域で暮らす人々が

人生の思い出やまちの記憶を呼び起こし、それらをより望ましい形で次世代につなげていきたいと、具体的に次の3つの目標を掲げています。

★地域に残る古写真の破棄を食い止め、かつての地域を知ることができる資料を保存

★古写真に写る町並みや家並み、生活の記憶から「まちの形」を再認識

★地域の美しい町並みや自然素材を活用した暮らしづくり、歴史文化都市の大切さを共有

それらの目標を達成するため、

(1)古写真を集める

家族写真・風景写真、郷土史家・町の写真屋さんの収蔵写真、店舗やビル・住宅の建替え前の記録写真など、そのまちにまつわる古写真を収集します。また、各写真に関する情報（撮影時期、場所、出来事など）も収集し、記録していきます。

(2)古写真を活用する

展示やイベント、ワークショップ等で古写真を活用します。また、古写真活

用ネットワークを形成し、多様な主体と協働して様々な活動に展開します。

①タイムトリップツアー

古写真カードを片手にまち歩きをします。タイムトリップ気分でまちを巡ります。古写真の場所を探し当てた参加者には、オリジナル缶バッジをプレゼント。

②古写真館

古写真を展示し、多くの方に見ていただけます。過去と現在の写真を織り交ぜたまちの変化が分かるスライドショー（今昔入フレイン）も上映します。写真提供者が語り部となることもあります。

③古写真サロン

古写真をきっかけに、思い出や感想を語り合います。

④今昔マップ

古写真に写る町並みや建物の記憶を書き出し、思い出マップを作ります。

(3)古写真をアーカイブする

収集した古写真をデジタル化し、クリエイティブ commons としての公開を目指します。



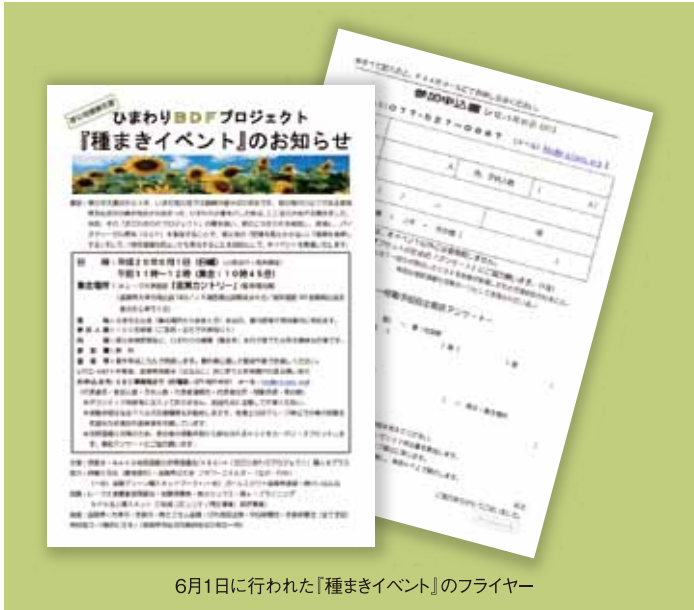
これまで取組んできた対象地域は、大阪市上町台地（北は大坂城から南の四天王寺までの高台地帯）が最初で、次いで同東成区、同住吉区住吉大社周辺地域へと拡大しました。まだまだ集まる写真やまつわる人々の思い出は少ないのですが、こういった地道な活動を続けることで、個人の思い出がまちの財産になりま

す。歴史を生かしたまちづくりを進め、歴史コミュニティが育っていくよう、頑張りたいと思っています。

● 近江ひまわりプロジェクト

このプロジェクトは、近江環人8期生が主体となって、東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市鹿折地区から始まった「鹿折に花を」の活動

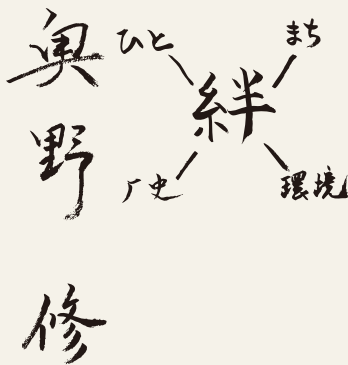
の輪を、滋賀県東近江市に根付かせ、ひまわりの花を咲かせてきたプロジェクトです。このひまわりプロジェクトがさらに進化し、京都B-WAKO地球温暖化対策協議会と連携して、再生可能エネルギーを創造する「ひまわりBDFプ



6月1日に行われた「種まきイベント」のフライヤー

ロジェクト」を開始しました。

具体的には、滋賀県内で開花したひまわりの種から搾油・精製し、バイオディーゼル燃料（BDF）を作り、被災地に還元します。「記憶を風化させない」「復興を後押しする」ことを目的に、鹿折地区との絆づくりを目指します。



●おくの おさむ 住まいよいまち&絆研究所代表。古写真を活用した活動を展開するなど市民主体の地域づくりを研究。龍谷大学非常勤講師(社会学部)、滋賀県レイカディア大学講師。環人ネット副理事長。



会場が一体となってリズムをとる。リーファのミニライブ

M・O・H通信10周年記念パーティ 「M・O・H cafe」開催!!

～M・O・H活動に向けて歩みだそう～

M・O・H通信10周年を記念するパーティ、M・O・H cafeを長浜ロイヤルホテルにて開催し、これまでに取材した方、読者、執筆者を中心に、89名の方にご来場頂きました。

M・O・H通信はこれまで、多くの方との出会いを通じて情報発信を続けています。支えてくださる全ての方へ感謝の気持ちを伝えると同時に、これからの10年をどうするか？ 一体どんな活動ができるだろうか？ M・O・H通信の発行に留まらず、持続可能社会の実現に向けた具体的な活動をしていきたいと思うようになりました。

「M・O・H通信のこれから」をテーマにしたテーブルディスカッションでは、「子ども向けのM・O・H通信をつくろう!」「ツアーを企画しよう!」「M・O・H村をつくろう!」と活発な意見交換が。長浜市の観光PR隊も務める～ Lefa ～ (リーファ) によるミニライブでは、会場が一体となり心地よい空間が作られました。

そんなM・O・H cafeの模様をご紹介します。





「アバウトさが特徴です」

お言葉

●内藤正明氏（執筆者懇談会）

M・O・H通信の方向性や取材先を検討する執筆者懇談会は、リーダーがおりません。皆の気持ちが必要の一つに集まって出来ているというアバウトさが特徴です。

M・O・Hは森会長の理念であり、社会をつくり変えようという強い信念から始まりました。これからはM・O・Hな社会をつくるための運動＝M・O・H活動を起こしたいという思いをお持ちのようです。

本日の会は、感謝の想いをお伝えするとともに、皆様からM・O・H活動を広げるためのお力をお借りしたいと思います。

- ◆日時/2014年3月21日(金) 12:00～
- ◆場所/長浜ロイヤルホテル
- ◆参加/89名
- ◆内容/(司会)豊田一美氏 辻村琴美) 食事会(観音の里長浜DVD上映) 開会挨拶
内藤正明氏(執筆者懇談会)
来賓の言葉
嘉田由紀子氏(滋賀県知事)
藤井勇治氏(長浜市長)
木村至宏氏(成安造形大学附属 近江学研究所)
- M・O・Hオリジナル詩吟 井上幸声氏
公開執筆者懇談会
・「M・O・H通信 10年の歩み」
スライドショー上映
・森建司、鵜飼修氏、山口美知子氏
・テーブルディスカッション
テーマ「M・O・H通信のこれから」
まとめ 海東英和氏
～Lefa～(リーファ) ミニライブ&
ティータイム
お礼の言葉
草野勉(新江州株式会社 代表取締役社長)
フィナーレ
- 【主催】新江州株式会社 循環型社会システム研究所M・O・H通信
M・O・H通信執筆者懇談会
- 【協力】パイン株式会社

●嘉田由紀子氏（滋賀県知事）



「滋賀の未来、日本の未来を映す道るべ」

8年前に「もったいない」で選挙に出たときはまだM・O・Hを知りませんでした。この冊子のことを知り、わくわくした思いで、森会長に会いに行ったのを覚えています。

M・O・H通信は、大地や自然の恵みから成り立つ本来的な経済とは何なのかを教えてください。滋賀の未来、日本の未来を映すメッセージ集、つまり私たちの道しるべです。

●藤井勇治氏（長浜市長）

長浜市は観音の里と呼ばれており、約130もの観音菩薩像が伝えられています。戦国時代には多くの戦の最中、観





「長浜市は観音様と祈りの文化が財産」

音さんだけは守らなあかん」と川や田んぼに埋めて地域の人が守り続け、地域の宝として観音様に手を合わせてきました。この観音様と祈りの文化を市の財産として誇りにしたいと思っています。43号で森会長が丁稚奉公に行っただけで技を覚えた経験を書いておられますが、私は滅私奉公で市政に取り組んでいます。

● **木村至宏氏**（成安造形大学附属 近江学研究所）

文化と経済が両輪のようにして活躍しないと、滋賀県の文化力は上がりません。6年前に文化・経済フォーラム滋賀を立ち上げた際に森会長にご講演を



「滋賀県の地域情報誌として継続を」

賜り、今年2月には我々が主催する「文化で滋賀を元気に！賞」を受賞されました。

M・O・H通信は滋賀県の地域情報を収集するのに最適な冊子です。これからも滋賀県の代表的な情報掲載誌として続いていきますように願っております。

みんなでつくろっしょー！
これからのM・O・H
【公開執筆者懇談会】

● **森建司**

私はM・O・H cafeを全国で開催し、持続可能社会の倫理の普及と実践をしてもらいたいと思っています。



「M・O・Hを自分の言葉に」森代表㊦ 「明日から現場で頑張れる」山口氏㊦ 「各自で実践を」鵜飼氏㊦



目先の問題点はたくさんありますが、将来を見据えた考え方を一人ひとりが持たなければ未来はありません。M・O・Hは主語の無い言葉。もったいない、おかげさま、ほどほどに、は人によって感じ方が違うので、自分の言葉として身に着けてほしいです。

持続可能社会とは何なのか？ 社会の倫理を運動で広げるM・O・H活動を実践していきましょー。

● 鵜飼修氏

森会長との出会いは15年ほど前。突撃で名刺交換させていただいたことをきっかけに、私の人生は大きく変わりました。

私は森会長の想いを是非とも実現させたいと思っています。私自身も各地でまちづくり活動をしています。が、理念を浸透させるには市民の意識を高めることが大事です。そのためには実践し、動きを興すことが必要です。

● 山口美知子氏

普段の執筆者懇談会でお聞きする森会長や内藤先生のお話は、お寺のお坊さ

んの説教を聞くようなもの。定期的に聞いて、「そうだった」と思い直してまた明日から現場で頑張れる。それを引き継いでいくことがM・O・H cafeの本当の意図と感じています。

東近江市役所で働いていますが、社会を変えるのは政治・市民だけでなく、行政の力も重要なのではないのでしょうか。今後市民に近い現場で頑張っていきたいと思います。

グループディスカッション

各テーブルから出た意見

● シンクタンクではなく「D.O.タンク」を実践しよう！

● 子どもころからM・O・Hに触れよう！

● M・O・H村ネットワークを作り、実際に現場で見れるような活動をしては？

● M・O・H認定、M・O・Hコインを流通させよう！

● バスツアーを企画しよう！

などなど



「時間が足りません。もっと話したかった」グループディスカッション

● 海東英和氏

皆、自分の生きているこの社会を良くしたい、そしてそれぞれの立場や暮らしで働きかけをしたいと思っているんだと改めて思いました。そのツールとしてM・O・H通信があり、ムーブメントを通してこの場で繋がった人たちが始めていくことが大事なんだと感じています。





「もったいない、おかげさま、ほどほどに、をムーブメントに」

「M・O・Hの精神を实践するM・O・H活動」

せっかくだからあれもこれもしたい！と盛りだくさんな内容になったM・O・H cafe。M・O・H通信の今後の活動に繋がる良いヒントをたくさん得られ、実りある会となりました。

今回出てきた具体的な活動の案から、実践活動へと動き出したいと思います。

M・O・H通信も変わらず進化を続けます。

当日お越しいただいた皆様、お祝いのお言葉をくださった皆様、執筆者の皆様、影で支えてくれたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

みなさんの声

M・O・Hの精神が良く伝わり、未来に向けての取り組みがいろいろ話し合われたことが良かった。

少し盛りだくさんな点がマイナス。後は良かった。

このネットワークを活かさないのはもったいない。

意識の高い方と高度な話げできた。

みんなが自分のやっていることに自信を持って発表、他人の話もきちんと受け止める姿勢だった。

共感するM・O・Hの考えを地域で実践していきたい。

会長さんの理念が益々膨らんでいるように心強い。

M・O・Hの心を子どもたちに伝える際、「ほどほどに」の伝え方には注意が必要。

このような機会をもう一度。有料でも良い。

「啓蒙活動から実践活動へ」非常に大切なメッセージである。では「どのようにして」そこが問題である。



至らぬ点が多々ありましたが、皆様のおかげで和やかな一日となりました。ありがとうございます



山暮らの子育て日記

作: 木下 千

この春、うちの子たちは
 中学1年
 小学4年
 保育園年17
 にあがった。

3人とも、朽木市場
 まで通っている。

朽木 保育園
 朽木 東小
 朽木 中學校
 市場

14km

朝は7:38
 出発。

3人とも 市営バスで
 30分かけて通っています。

と、よく
 聞かれますが…

「さー、毎日
 送り迎えしてるの？」

帰りは夕方
 4:45着。

もう
 まっ暗

3人とも、長男
 昔ながらあると、長男
 は、夜7:15着のバス。

日中はのんびりできる
 オアシス。

市場まで自転車
 往復したり…

畑に野菜を植えて
 いたり…

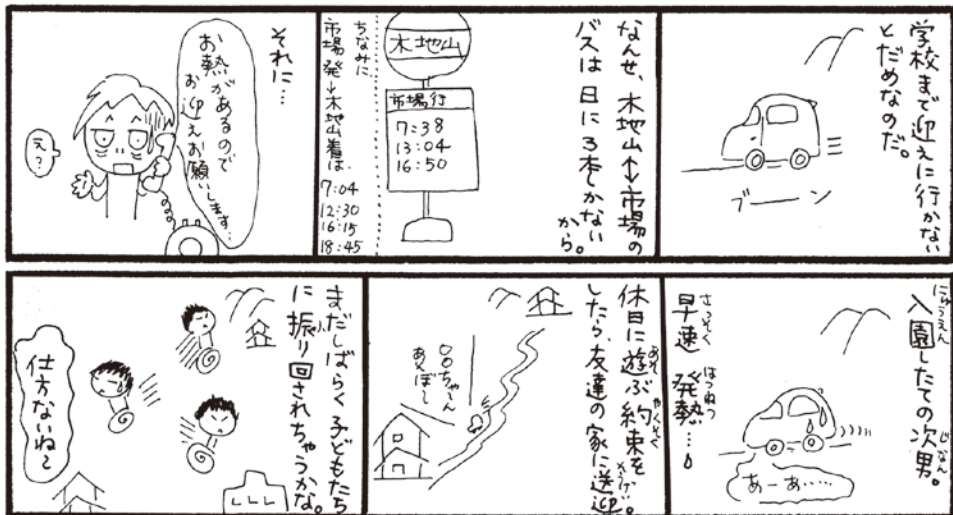
毎日、木ヤム生活に
 びっぴり浸れると
 思ったら、

「えい、明日学校11:00下校？」

「マニタ、ちんも喋りに
 きてくれんはなあ
 と、隣のおばあさん」

「結核性しくしている」と

「まきぼう
 竹新風呂用の杵、まきもの
 を集めたり…」



朽木地域には、保育園1園、小学校2校、中学校1校があります。全域の子どもが、一か所の保育園と中学校に通います。小学校は、市場区に朽木東小学校、中牧地区に朽木西小学校があり、保育園で一緒だった友達と小学校で分かれて、中学校で再会します。

さて、朽木地域はとても広く、集落が点在しています。市場区周辺以外はみんなバス通学で、一番遠い地区の子は、一時間もバスに乗るそうです。また、友達と遊ぶためには家の人の送迎が必要になります。集落内には

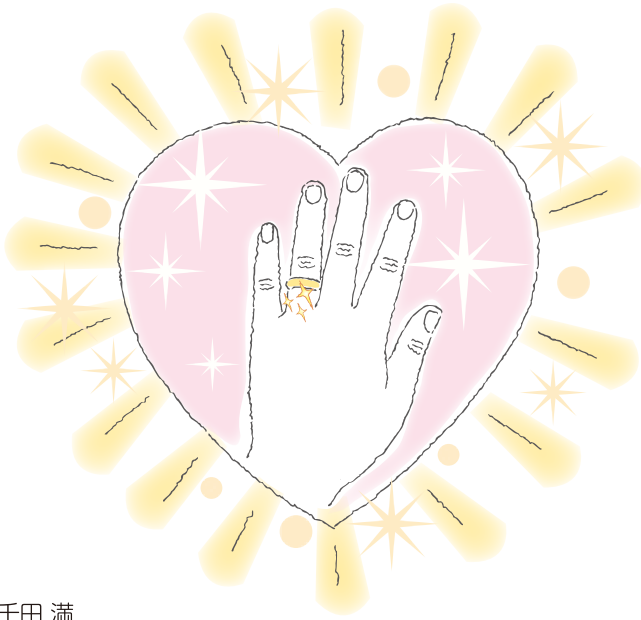
同級生がひとりもない、という地区は珍しくありません。そのかわり、異学年の子と仲良しだったり、休日は一日中たづぷりと友達と遊べたり、家族ぐるみで出かけたりますることも。送迎を通して家の人同士が顔を合わせるので、おしゃべりや情報交換もできます。私は住宅地育ちなので、自分の足で友達の家を行き来できませんでした。それはそれで親もよかったです。親同士の交流は朽木の人たちほどなかったように思います。それぞれの環境にそれぞれの良さがあるのかな。

● 本名加藤みゆき。人口17人の集落に住み3人の子育てに奮闘中。将来、家族で海外へ旅行するのが夢。



まばゆく輝く指輪

今関 信子



イラスト：千田 満

パートナーが介護の手を必要とするようになっている知人に、電話した。久しぶりの声は、いつもと変わりがなかった。

お喋りの花が咲きかけたとき、「最近わがままが出てきてね、『それほどだめです』というのに、やりたいようにやってしまつのだ」と、彼女が言った。お互いの睡眠を妨げないように、夜、おしめの着用してもびしょ濡つになつていゝらしい。それが気に入らないので、はずしてしまつた時のことだ。

「この間、失敗してしまつてね。『ほう、ごらんなきい。洗濯物がこんなに出るじゃありませんか』って、布団カバーやシーツなんか、山のように積み上げて、『だめと言われることをした人は、お尻べんべんです』と、お尻を叩いたのね。そしたら、彼が、『そんなことをする人は離婚です』と、『さ』のふ。『あ』は、そつしまじゅつ『って逆ひわす、私は、彼を着替えさせるとのね。彼は大きいでしゅつ。重労働なのふ。』

私は、彼女とパートナーの体格を思った。彼女は小柄。パートナーは大柄だ。額に汗を浮かべる彼女が想像できた。

「朝、目が覚めたら、彼だったら『おや、あなたは、まだいたのですか』って言うのよ。『こは、わたしの家ですから、

いますよ』って言ったたら、彼は考え込んでね。それから、唐突に、『十時に買い物に出かけます』って言い出したの。『どこへ行くんですか』ってきいたらね、『指輪を買いに行きます』って言うじゃないの。私は仰天して、『だれにあげるんです。指輪なんて』って言ったたら、『あなたにもう一度プロポーズするのです』って言うのよ。私、驚いちゃったわ。」

私は、思わず噴き出した。そして、しばらく笑った。流れる涙をそのままにして、笑った。

私は言った。

「すてきだわ!!」

彼女は、私をいぶかしがっている。

「今日の話は深刻だったけど、楽しかったわ。この時を、この状況を、全力で生

きている感じがして、嬉しかったわ。あなたが話すと、どんなときでも、どんなことでも、面白く伝わってくるわ。あなたっていつ人が、そういう人なのねえ。あなたって、すてきです。とーってもすてき。」

電話を切っても、しばらく、私はくくふ笑っていた。心の底から温められている気がして、体がほっこりしていた。

それからしばらくして、とつぜん訃報が届いた。小さな教会堂に人が溢れていた。彼女はごくごく自然に、長年連れ添ったパートナーとの別れを受け入れていた。

彼女の指に、あの指輪はもろろんない。でも、私には、二人の濃く深く関わった日々の数だけ光を放つ指輪が、見える気がした。パートナーが思いをこめて送った指輪は、彼女の指にたしかにはまっていた。

共に生きて
今問屋子

●いませきのぶこ1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

主な著書／『小犬の裁判はじめます』1987年 草心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995年 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で「寺子屋」づくり」2003年 PHP研究所など多数。

●せんだ みつる1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。



げん ば お 玄蕃屋城 三山 元暎



さし絵:中川 善雄

越えから、しばらくは急な木の階段を登っていく。
雨上がりで、淡い黄緑、浅緑、萌黄色に染め分けられた新緑の稜線がまぶしかった。花卉を水平に開いたユキバタツバキが赤い花を咲かせていた。盛りをすぎたイカリソウが葉の下にひっそりと咲いて

黄金週間に近江・越前の国境にある柳ヶ瀬山へ行った。かつて国鉄北陸本線の隧道であった車一台がやっと通れる柳ヶ瀬トンネルを敦賀市側へ出て、すぐ林道を進み、車止めの広場から歩いた。

柳ヶ瀬山は、賤ヶ岳合戦の際に柴田勝家が本陣を置いた山城「玄蕃屋城」があったところである。北国街道から敦賀へ抜ける重要なルートであった刀根

小さな白いかわいい花をつけたチゴユリも咲いている。

急登の道を越えると、やがて城跡の入り口が現れる。枡形と呼ばれる虎口の曲輪である。山頂の城は、南北三百メートル、東西五百五十メートルもある広大なものだ。平成に入って敦賀市の教育委員会が整備するまでは、幻の城として草に埋もれていたという。

曲輪や高い土塁が巡らされ、土造りの城とは思えない残りのよさである。城跡のヤマモミジの木々も、萌え出した葉先の赤味が美しい。「お菊二十四」「いいこと聞いた」とイカルが鳴いた。ウグイスも負けじと鳴いている。雨に洗われた薄紅色の山桜が霧にけぶり、とても幻想的であった。

四百年の時を超えたり山桜
遠き世のささやき聞ゆ山桜

林 芳子
平野 千江

ガイドブックには、城跡から眼下に柳ヶ瀬の集落と北国街道が手に取るように見えるとあったが、残念ながら付近一帯の樹木が生い茂りかなわなかった。でも、初めて見る山城の景色なのに、いつかどこかで見たという気持ちにさせられた山行だった。

三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺前任職。

悠々自適

中川 善雄

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

びわ湖・長浜のホトケたち



- 企画／長浜市・東京藝術大学美術館
- 発売／サンライズ出版
- 価格／1500円＋税
- 内容／東京藝術大学大学美術館で開催された「観音の里の祈りと暮らし展」図録。長浜に息づく観音文化の魅力が詰まった二冊。3月21日～4月13日までの展覧期間中、来場者は19213名を数えた。

石油文明はなぜ終わるか 低エネルギー社会への構造転換



- 著者／田村八州夫
- 監修／石井吉徳
- 発行／東洋出版
- 価格／1800円＋税
- 内容／「もったいない学芸」副理事長・田村氏の著。日本発の《MOTTAINAI N A》文明を提唱する。

大和心が日本を救つ おもてなしの心こそ防災の原点



- 著者／飯井基彦
- 発行／かもがわ出版
- 価格／1400円＋税
- 内容／巨大災害への備えにも東京オリンピックの成功にもインフラの整備・強化は急務。その対策を示す。

Discover the Museums in Shiga



- 編集／滋賀歴史美術館ガイドブック編集委員会
- 内容／滋賀の博物館をカラフルな写真とともに紹介するガイドブック。全文英語で掲載。

芸術村作品集



- 編集・発行／芸術村N余呉実行委員会
- 内容／「アートによる町の再生」をテーマに掲げた同委員会。廃校となった旧余呉小学校を甦らせ、「余呉まるごと里山芸術村2013」を開催した。余呉の魅力が詰まった一冊。

住まいの歴史研究から ミュージアムへ



- 著者／谷直樹
- 内容／弊誌42号に登場し、昨年大阪府立大学を定年退職した谷氏による、「大阪くらしの今昔館」を紹介した冊子。『月刊百科』（平凡社刊）誌上に、「ミュージアムの暮らし（11か月）」と題し、2009年12月から連載されたもの。

能登川 地域料理人



- 取材編集／水野華織
- 監修／近藤隆一郎
- 発行／エトコ
- 内容／能登川で食の活動をされている「地域料理人」のこだわりを発信する。



- ♪ ほどほどに 紙を使って 幸せに
- ♪ もったいない ヘタまで食べれる やさいたち
兵藤 大瑚
- ♪ もったいない いつも心に 留めておく
- ♪ 生きている あれもこれもが おかげさま
- ♪ 人を思う 自分のことは ほどほどに
- ♪ 大切に 最後まで使う 地球のため
- ♪ ありがとう 私があるのは みんながいるから
- ♪ 欲張らず スマートに生きる 腹八分目
島津 美玖
- ♪ 広めよう 僕が生きるのも みんなのおかげ
外山 涼介

- ♪ 自分色 出しすぎるのは 悪影響
堀 晃樹
- ♪ 前日の 頑張りすぎは 居眠りに
堂園 さくら
- ♪ この郷土 ぼくらの一部 大切に
松井 愛
- ♪ ほどほどに がんばるあなたは うつくしい
樋谷 健太郎
- ♪ テレビの電源 つけてねるのは 金の無駄
長谷川 美有

◆せんりゅう 一般作品

- ♪ 復興費 すさんゆがんだ 使い道
- ♪ 豆まきして うちには鬼が おりません
- ♪ お〜いお茶 一寸といっぷく ながしゃべり
滋賀県 長浜市 伊香の退屈男

- ♪ 10年の 思い広がる M・O・Hの庭
匿名

◆なぞかけ

- ◎「環境問題」とかけて「大きなことをなしとげた後の一言」と解きます、
その心は「どんな問題? (どんなもんだい!)」
兵藤 大瑚

お知らせ

「かけはし」に 新江州が掲載



滋賀銀行が
発行する「かけ
はしvol.158」
で頭取・大道氏
と新江州代表取
締役社長・草野
勉の対談が掲
載されました。

「人を大切に」を経営理念とする
新江州の取り組みを紹介してい
ます。「ユニークなCSR活動」と
してM・O・H通信も登場しました。

近江環人地域再生学座公開特別講義 NPO法人環人ネットの総会記念シンポジウム 『ブランド化による地域再生～スーパー 公務員のローマ法王献上米に学ぶ～』

- 日 時:2014年8月2日(土) 14時～17時
- 会 場:滋賀県立大学A2-202教室
(滋賀県彦根市八坂町2500)
- 参加費:無料 当日受付 定員200名先着順
- プログラム
14時 開会
基調講演「ブランド化による地域再生」
高野誠鮮氏(石川県羽咋市役所職員)
15時30分 パネルディスカッション
「県産米のブランド化を考える」
17時 閉会

M・O・Hせんりゅう♪& なぞかけ

◆滋賀県立大学の1回生の作品です。

- ① 何べんも ほんまおおきに 満足や
島津 宇宙
- ② もったいない 新歓行って 無飲食
- ③ おかげさま 今の生活 父と母
盛下 勇磨
- ④ うつむくと 差しだすあめちゃん 背がのびる
- ⑤ 後になり 分かる注意の ありがたみ
相羽 美里
- ⑥ もったいない 魚の骨で 出汁づくり
石谷 航太
- ⑦ もったいない その一言で 道(未知)開く
松浦 峻也
- ⑧ 買う前に よく考えよう 必要性
田中 優登
- ⑨ もったいない 持ってこようよ レジ袋
- ⑩ 一人の夜 父の優しさ 思い出す
村上 梨奈
- ⑪ 地方から 各地へ届ける 熱い思い
福井 遥
- ⑫ 古き物 もういらないと 捨てちゃうの?
井手上 拓未
- ⑬ ほどほどに 足りないくらいが 丁度いい
- ⑭ 難しい? そんなことない 簡単さ
- ⑮ 欲ばると 欲は止まない いつまでも
三田 綾香
- ⑯ 日頃から もったいないを 大事にね
田村 綾野
- ⑰ 少しだけ 今日は早めに 寝ようかな
長谷 美智留
- ⑱ ごみをだす よく調べよう 分別法
梶原 諒
- ⑲ もったいない 滋賀をしらない もったいない
藪田 晋輔
- ⑳ 考えよう 自分がほしがる その量を
阪本ひかる
- ㉑ とともに協力 先をみすえた ボランティア
佐々木 千夏
- ㉒ 何事も まだ使えるかは 気持ちしたい
中園 哲典
- ㉓ その電気 つけてる意味ある? はよ消しや
吉村 駿平
- ㉔ ゴミじゃない 利用方法 無限大
荻野 勘太郎
- ㉕ 捨てないで どんなものにも 命あり
下村 大輝
- ㉖ おいしいな まだ欲しいほど ちょうどいい
楠 彩花
- ㉗ 誰つけた? ついたまんまの 電気消す
山中 大貴
- ㉘ それはまだ 使えるのでは 捨てないで
土屋 明穂
- ㉙ 今がある 昔の人の おかげさま
牧澤 茜
- ㉚ ありがとう 迷うくらいなら 言っておこう
栗原 理駆
- ㉛ ちよい待って それちゃうことに 使えるぞ
井上 樹
- ㉜ 今日もまた みんな笑顔で おかげさま
牧田 駿佑
- ㉝ スマートフォン 釘付けな目も ほどほどに
東郷 玄哉
- ㉞ 見つけよう 身近にひそむ もったいない
- ㉟ 琵琶湖の水 キレイにするのも ほどほどに
井上 真希
- ㊱ いつだって 君の優しさで 笑顔です
吉原 愛実
- ㊲ 大丈夫? 水の出しすぎ ほどほどに
- ㊳ おかげさま 心の中に とどめてる
- ㊴ むだづかい ちりもつもれば もったいない
篠田 壮馬



追悼—畑裕子先生 亡き妻への最後のラブレター

畑 明郎



「愛する風景」を連載していただいた、畑裕子先生のご冥福をお祈りします。弊誌41号「み仏の森」が絶筆となりました。夫である明郎先生より追悼の文をいただきました。

せめて5月13日の66歳の誕生日までは生きていて欲しかったのに、わずか10日前の5月3日に逝ったあなたでした。「送りびと」によれば、「死後硬直してないので、苦しまずに逝かれた」とのことは、救いでした。2年弱の間病生活は苦しかったと思いますが、2年前に肺がん末期と分かった時に余命数か月とされながら、2年弱持ったことは、家族や友人の励ましに欠けた結果であり、よく頑張ったと褒めてあげたい。

良妻賢母として子育てが一段落した後、1993年の朝日新人文学賞を受賞し作家生活に入り、9冊の単著と多数の雑誌記事を残し、発病後も「あと3冊は書きたい」と言っていました。が、かなわぬ夢となりました。妻の受賞に刺激を受けて、私も1994年に初めての単著を出版し、それを契機に大学へ転職し、約20年間に10冊の編著を上梓できましたが、ひとえに妻の支えと励ましがあつたおかげと感謝しています。その間に2回もの夫婦出版パーティを開催できたことは、楽しい思い出です。

これからは、主婦兼作家の二足のわらじを脱いで、安らかにお休みください。

〈畑裕子先生を偲ぶ会〉

日時：2014年7月21日(月)12時

場所：ホテルニューオウミ（滋賀県近江八幡市鷹飼町

481）

講演日記

皆様のご支援でたくさん
さんの講演依頼を頂きました。4月～5月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

執筆者懇談会35

日時：4月7日
主催：弊誌

場所：旧大津公会堂
大津ブリル

参加：14人

内容：3月21日に開催したM・O・H Cafeの報告と今後のM・O・H活動について協議した。いくつかのワーキンググループに分かれ、読者参加型の活発なM・O・H活動を目指す。また4号取材先を決定、45号内容を協議。げようご一致団結！

よばれやんせ湖北

日時：4月9日
主催：よばれやんせ

湖北実行委員会
場所：北ビワコホテル
ブラツィエ

対象：一般
参加：10人

内容：生産者と消費者をつなぐ交流会、よばれやんせ湖北を今年も開催することが決定した。テーマや内容については今後検討。

KBSラジオ

「塩見祐子の
ごきげんよう！」出演



日時：4月26日

コーナー：さざなみ
サロン

ゲスト：森建司

パーソナリティ：塩見祐子

内容：滋賀県内の各種団体のトップやアーティスト、アスリートが登場するさざなみサロンのコーナーに森代表がゲスト出演。M・O・H通信の活動をインタビュー形式で紹介した。

滋賀県立大学 市民参加論



日時：5月2日

演題：「編集・取材を通して高める人間性」

講師：辻村琴美

会場：滋賀県立大学

対象：学生

参加：40人

内容：記者としての編集講座を開催。編集

者になつたらどんなテーマとコンテンツを組み合わせるか、という内容で課題を投げかけた。M・O・H通信を紹介する場面では編集長節がさく裂。笑いの絶えない授業となった。

講演スケジュール

6月からの講演予定です。

北星高校講義

日時：6月10日

演題：「商いから学ぶ、持続性のあるまちづくりについて」

講師：森建司

滋賀県立大学セミナー

日時：7月2日

演題：「地域の交流と地域づくり」

講師：辻村琴美

滋賀県立大学 市民参加論

日時：7月11日

演題：「政治も産業も市民が創る」

講師：森建司

木之本常楽寺講演

日時：7月13日

演題：「もったいないおかげさまほどほどに、の心でひらく幸せの道」

講師：森建司

金沢大学講義

日時：8月18日

演題：「ファシリテーターの役割」

講師：辻村琴美

マザーレークフォーラムびわこ会議

日時：8月23日

テーマ：「人づくり」

進行：辻村琴美

愛荘町管理職研修

日時：8月25日

演題：「編集・取材を通して高める人間性」

講師：辻村琴美

近江歴史回廊大学

日時：9月6日

演題：「近江の魅力いまだきの元気な神社見聞」

講師：辻村琴美



加工・直売・体験施設「久次郎」オープン



米原市大久保集落の真ん中に真っ赤な屋根の古民家があります。ここに、地元農家有志で結成された「伊吹山麓元気農業協議会」が運営する加工・直売・体験施設

「久次郎」がオープンしました。代表を務めるのは、弊紙43号にご登場のいぶきファームの谷口隆一氏。加工・直売・体験以外に旬の地域食材を使った田舎料理、伊吹山麓で採れたそば粉100%を使った蕎麦の食事やコーヒーもあります。また、伊吹で採れた山菜や伊吹大根、トマト、茄子、葱など新鮮な野菜、手作

り加工品をお買い求めいただけます。自然いっぱいの「久次郎」で田舎の魅力を感じてください。

営業日は水曜日、土曜日、日曜日、祭日で、11時～14時が食事、コーヒーのみは9時～15時30分です。

食事は、事前の申し込みができます。(農作業等で営業できない場合はお店の前に事前にお知らせされます。)

■問合せ

伊吹山麓元気農業協議会(代表:谷口隆一)
滋賀県米原市大久保917
TEL:090-1078-6111

mooさんのハンドメイド雑貨

「はじめまして。mooです。ハンドメイド雑貨をつくっています。モノづくりを通じて一人でも多くの方の心がほっこりするよう、笑顔に繋がるようにと願いを込めてひとつひとつ、丁寧に心を込めて、モノづくりをしています。」



■問合せ

メール:moonomail7@gmail.com
<http://ameblo.jp/m00blog/>



淡路島あめけだまギフト

淡路島を知りつくした太鼓腹スタッフが選ぶ、淡路島のこだわり特産品の詰め合わせ。毎月旬の味が届きます。「あめけだまをはる」とは淡路島の方言で、あおむけになって寝ころぶこと。子どもが欲しがって、

「あめけだまをはる」ほどおいしいギフトです!

■問合せ

NPOソーシャルデザインセンター
淡路
南あわじ市神代地頭方1538-1
TEL:0799-42-0399
<http://awajisoda.jp>



越中さん家の にこやか

©サトウチユウコ



こんな組み立て家具がほしかった！ くでじゅう 組手什甲賀

パーツを組み合わせて自由自在に家具を作ることができます。何度でも作り直せるから発想は無限大∞ 素材は桧または杉材で軽くて持ち運びも楽々です。野洲川流域の森の間伐材を使用しており、琵琶湖の



森とあなたをつなぎます。

天然木材でつくる、あなただけの家具を楽しんでみてはいかがでしょう♪

■問合せ

こなんの森 木の家ねっと
滋賀県栗東市小野1007-3
TEL:090-1134-0804

<http://konan.shiga-saku.net/>

パラパラマンガ作家紹介

本誌の左下と右下をパラパラして下さい。
何かが動きます。若手作家の力作です。



●しおん

(左ページ)

郷内ユウコの腰巾着。漫画やイラストの創作を中心に活動中。

「雨上がり」

梅雨の時期なので傘で踊る猫を描きました。虹が出ることで気持ちも明るくなるように描いてみました。

サトウチユウコ

●郷内ユウコ

(右ページ)

しおんの友人。色鉛筆が好きで、マンガやイラストなどを作成している。

「夏のドット」

丸を変化させながら、夏らしい様子を表しました。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心か思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

shingoshu.co.jp

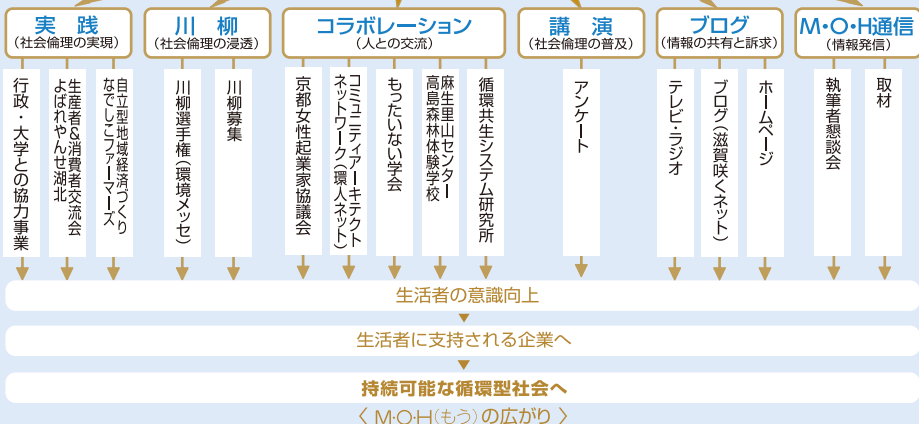
代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

上岡 瞳

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★42号の三山さんの連載が心に残りまし
た。偶然いただいた冊子ですが、大変
興味深く思います。

大津市 松村 順子

★写真も美しく、全体の内容も素晴ら
しい冊子ですね。紙面に参加させてい
ただき大変光栄で、感激しました。

京都市 山本 和也

★「スタッフ座談会」、面白い。辻村さん
の人となりや顔の広さ、これまでのご
苦労が垣間見え非常に親近感が湧き
ました。

日野町 山本 剛広

★M・O・H社会が広がれば、ストレスのな
い暮らしやすい社会が実現できるの
ではないかと思えます

守山市 峯田

★43号、いつも増してインパクトのある
表紙ですね。表紙をみているだけで、
どンドン取材の範囲も内容も深まっ
ているのを感じます。

大津市 松田 千春

★我々が忘れてきたものを今この冊子で
取り戻すことができ、次の世代の人た
ちに伝えなければならぬ義務が生じ
ました。

四日市市 寺本 佐利

★執筆者懇談会の様子は創造的でいつも
大好きです。

大津市 北井 香

M・O・H Cafeへのメッセージ

★循環型社会を築いていく環境倫理普
及活動の情報誌としてこれからも大き
く発展されますよう祈念いたします。

滋賀銀行 大道 良夫

★貴通信の継続的な活動は、同じ志の
全国の人々、団体にとつて、勇気づけ
られる「ともし火」として輝きを増し
ています。

もったいない学会 石井 吉徳

★「時代は持続可能な循環型社会への転
換期にさしかかっておりますが、直
ちに変革が実現できる状況ではありませ
ん。その中にある確固たる信念の下
に、有意義な活動を続けていただい
ていることに心から感謝を申し上げます。
NPO幸福の国 野坂 弦司

★M・O・Hの10年がすぎないで来たヒト・コト・
モノ、見事です。

藤井 絢子

★「M・O・H」は人間が平和で豊かな
に暮らし続けいくためのキーワードです。
次代を担う若い人達にこの言葉と精神
をしっかり伝えることが大切です。

妻の家 山崎 隆

★私たちの今後の活動の指標とすべきお
話もお聞きする事が出来ました。今
後もこの様な機会がありましたら是非
参加させていただきたいと存じます。

野洲市 水島 左知子

その他、多くのメッセージをいただきあり
がとうございました

《次号予定》2014年9月発行予定

- 特集：人・恩顧地心(恩を顧みて心は地にやどる)
 - M・O・Hな店／「夫婦がつくる丁稚羊羹」和たす
 - 対談／「持続可能社会の人づくり」武村正義＋森建司
 - 取材／「伝統技術・小原かご最後の継承者」太々野功
 - 取材／「紫草(むらさき)を栽培して地域を元気に」前川真司
 - 取材／「ほほえみ園が子どもの感性を拓げる」近江鉄道
 - 寄稿／「コミュニティペーパーが人をつなぐ」大森カフエ
 - 寄稿／「薪ストーブで森を育む」前出産業
 - 連載／通常通り
- ※敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

- 今号は「more moh」。これからmohを柱に暮らしの中から未来を変えます。私たちの身近な方の活動が、実は革新的なムーブメントになっているのです。……………こと
- 暮らしの中から生活を変えてみよう、茶畑づくりに野菜栽培、古民家改修に奮闘中。人の恵みは大地の恵みからきているのだ！……………ひとみ
- 取材の仕事始めて以来ずっと、使いやすさで「キャンパスノート」一筋。今回、M・O・H精神との共通点の多さを知り、ますます愛着が。……………あや
- 毎日のなにげない一コマにあるお店が実はいろんなことを考えてくれているんですね。……………のりこ
- 6月に入りとうとう猛暑日が観測されました。私は、暑くなるとすぐにクーラーをつけてしまうのですが、夫は自然の風を好み、クーラーを使わず夏を過ごします(尊敬します)。今年は夫を見習い、脱クーラー(7月までは)してみようと思います。……………ともみ



《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

《M・O・H通信》申込書  **0749-72-8681**

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住 所	〒		
電 話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、M・O・Hせんりゅう&なぞかけをお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.44(通巻45号) 2014年6月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H 通信編集局

代 表 森 建 司

編 集 長 つじむら ことみ

編集・取材 上岡 瞳

取 材 山崎 彩

古田 紀子

デザイン 伊達デザイン室

写 真 辻村写真事務所

平田 尚加

印 刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

●執筆者懇談会

内藤 正明 今関 信子

海東 英和 堤 幸一

山田 朝夫 進 ひろこ

下西 康嗣 中村 誠

末永 國紀 笹山 千怜

花田 真理子 結城 美枝子

弘中 史子 松崎 和弘

山崎 隆 井上 昌幸

三山 元暎 辻村 耕司

加藤 みゆき 佐々木 洋一

清水 安治 徳永 拓美

檀上 俊雄 山口 美知子

森 孝之 岡部 達平

堀越 昌子 豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県

琵琶湖環境科学研究C

もつたいない学会

循環共生社会S研究所

高島森林体験学校

麻生里山センター

滋賀県立大学

近江環人 地域再生学座

NPO法人環人ネット

野洲生活学校

EEネット

中小企業家同友会

(順不同)

●支援

新江州(株)

〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。